

児玉町文化財調査報告書 第8集

# 真鏡寺後遺跡Ⅱ

児玉町内遺跡群保存事業に伴う発掘調査報告書 6

埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

児玉町文化財調査報告書 第8集

真<sup>しん</sup>鏡<sup>きょう</sup>寺<sup>じ</sup>後<sup>うしろ</sup>遺跡Ⅱ

児玉町内遺跡群保存事業に伴う発掘調査報告書6

1988

埼玉県児玉郡児玉町教育委員会

## 序

農道として新しく生まれ変わった真鏡寺後遺跡に立ち、往時を偲ぶ。ふとそのときに、私たちの消費した無数の器物、あるいは私たちの生きてきた証としての歴史は、未来社会において果してどのような扱いを受けるのだろうか、そんな思いが私の頭をよぎります。私たちの毎日の暮らしは、多忙という日常性の中に飲み込まれ、歴史の中に生きているという意識のない日々を送ることが多いものです。しかし、やがては私達の毎日が歴史の中で語られる日もくるでしょう。そのときに、私達の日頃の生き方が問われることになるのですから、如何に日常を過ごしているのかを自分自身に問い返さずにはられません。

私どもの社会教育活動もまた、このような歴史の中で評価されるのですから、日頃のたゆみない努力が必要であることを痛感させられるのです。過去を省みるという行為は、同時に私達の日常生活を逆に位置づけるものであり、日常生活に対する自覚を生み出すひとつの大きな契機になるものであると思います。「文化財の町」とも言われる私達の児玉町は、誠にこのような日常を省みる契機に満ちた土地柄であるということができると言えましょう。

発掘調査され過去から再び私達の目の前に姿を現した遺跡は、私達に過去の歴史ばかりでなく、私達が現在の歴史の中にどの様に生きているのかを考えさせてくれるものです。しかし、遺跡は、一度発掘してしまいますと二度と元へは戻らないものです。この「現代」という時代に課せられた使命である遺跡の保存につきましても、今回もその保存の措置について、関係機関等と協議を重ね、現状で保存できるよう要望してまいりました。しかし、やむをえず「記録」として、このささやかな発掘調査報告書という形で後世に伝えることになったものです。

本書が、町民の皆様や、教育・研究にたずさわる皆様の、御参考となりえるならば幸甚に存じます。私どもも、私達とこの地域にとっての歴史とはなにかを問いつつ、この時代に根ざした教育行政に努力してゆく所存であり、皆様のこれまで以上の御協力を、心より念願する次第です。

昭和63年 3月20日

児玉町教育委員会

委員長 野 口 敏 雄

## 例言

1. 本書は、埼玉県児玉郡児玉町大字塩谷字真鏡寺後に所在する真鏡寺後遺跡（A地点）の発掘調査報告書の第Ⅱ冊（遺物篇）である。
2. 発掘調査は、農道改良舗装工事に先立つ児玉町内遺跡群保存事業として、昭和57年度に児玉町教育委員会が実施したものである。
3. 発掘調査および整理・報告書に要した経費は、町費・国庫補助金・および県費補助金（埼玉県教育委員会）である。
4. 本書の編集は、大屋道則の協力を得て鈴木徳雄が行い、執筆については大屋道則が行った。なお赤色顔料の分析については、東海大学理学部齊藤 章氏、同工学部宮本 泰男氏の玉稿を頂いた。
5. 発掘調査および本書作成にあたって下記の方々や機関から御助言・御協力を賜った。（順不同、敬称略）  
赤熊浩一、飯塚博和、井上肇、梅沢太久夫、岡本幸男、小川良祐、柿沼幹夫、金子彰男、加納 実、雉岡恵一、桐生直彦、笹森健一、篠崎 潔、関根慎二、外尾常人、高橋一夫、谷藤保彦、田村誠、利根川章彦、中村倉司、成瀬正和、長谷川勇、増田一裕、丸山 修、峰村 篤、矢内 勲、山口逸弘、東海大学理学部分析化学研究室、埼玉県教育局文化財保護課、児玉郡市文化財担当者会
6. 本書作成の主な作業分担は、次のとおりである。  
遺物復元（林和代、山崎泰子） 遺物実測（大屋道則）、製図（田口直実）、写真撮影（永尾順一、山田英彦）、その他（尾内俊彦、徳山寿樹、田口照代）
7. 本書は、先年度刊行した遺構篇『真鏡寺後遺跡Ⅰ』の遺物篇であり、調査組織や期間等についてはこれを参照して頂きたい。

# 目 次

## 序

### 第Ⅰ章 出 土 遺 物

1. 出土遺物観察の視点…………… 1
2. 出土遺物観察表…………… 3
3. 出土遺物実測図…………… 17

### 第Ⅱ章 出土状態からみた一括遺物の同時性

1. 住居址からの遺物出土状態…………… 28
2. 出土遺物の型式論的検討…………… 30
3. 住居址出土遺物の時間差…………… 31

### 付 篇 坏塗彩赤色顔料の分析

1. 分析の操作…………… 33
2. 分析の結果…………… 33
3. 赤色塗彩の坏について…………… 34

### 写 真 図 版

真鏡寺後遺跡 A 地点住居址一覧

| 遺 構        | 時 期 | 遺 構        | 時 期 |
|------------|-----|------------|-----|
| 第 1 号住居址   | 鬼高期 | 第 8 号住居址   | 和泉期 |
| 第 2 a 号住居址 | 鬼高期 | 第 9 号住居址   | 和泉期 |
| 第 2 b 号住居址 | 鬼高期 | 第 10 号住居址  | 和泉期 |
| 第 3 a 号住居址 | 鬼高期 | 第 11 号住居址  | 和泉期 |
| 第 3 b 号住居址 | 鬼高期 | 第 12 号住居址  | 樽 期 |
| 第 3 c 号住居址 | 諸磯期 | 第 13 号住居址  | 和泉期 |
| 第 4 a 号住居址 | 鬼高期 | 第 14 号住居址  | 和泉期 |
| 第 4 b 号住居址 | 和泉期 | 第 15 号住居址  | 和泉期 |
| 第 5 a 号住居址 | 鬼高期 | 第 16 号住居址  | 和泉期 |
| 第 5 b 号住居址 | 諸磯期 | 第 17 号住居址  | 樽 期 |
| 第 6 a 号住居址 | 鬼高期 | 第 18 号住居址  | 和泉期 |
| 第 6 b 号住居址 | 鬼高期 | 第19 a 号住居址 | 和泉期 |
| 第 7 号住居址   | 和泉期 | 第19 b 号住居址 | 樽 期 |

石製品・土製品・鉄製品等一覧

| 番号 | 遺 構    | 遺 物     | 状 況 | 備 考       |
|----|--------|---------|-----|-----------|
| 1  | 1 住    | 白 玉     | 床 直 | 淡緑色蠟石製    |
| 2  | 2 a 住  | 白 玉     | 覆 土 | 灰白色滑石片岩製  |
| 3  | 2 a 住  | 鉄 鏝 の 柄 | 覆 土 | T 字状のかえし残 |
| 4  | 3 b 住  | 土 玉     | 覆 土 | 褐色土製      |
| 5  | 3 b 住  | 土 玉     | 覆 土 | 黒色土製      |
| 6  | 3 b 住  | 土 玉     | 壁 溝 | 黒色土製      |
| 7  | 3 b 住  | 土 玉     | 床 直 | 黒色土製 2 割れ |
| 8  | 3 b 住  | 白 玉     | 床 直 | 白色滑石片岩製   |
| 9  | 3 b 住  | 白 玉     | 覆 土 | 白色滑石片岩製   |
| 10 | 3 b 住  | 白 玉     | 覆 土 | 白色滑石片岩製   |
| 11 | 6 a 住  | 土 玉     | カマド | 褐色 無穴     |
| 12 | 8 住    | 白 玉     | 覆 土 | 黒色蠟石製     |
| 13 | 8 住    | 土 玉     | 覆 土 | 褐色土製      |
| 14 | 8 住    | 土 玉     | 覆 土 | 褐色土製      |
| 15 | 11 住   | 勾 玉     | 覆 土 | 深緑色蠟石製    |
| 16 | 11 住   | 勾 玉     | 覆 土 | 土製        |
| 17 | 18 住   | 白 玉     | 床 直 | 淡緑色蠟石製    |
| 18 | S K-17 | 剣形石製品   | 覆 土 | 両端欠損 緑色   |
| 19 | 1 住    | 鉄 斧     | 覆 土 | 装着部分袋状    |

# 第Ⅰ章 出土遺物

## 1. 出土遺物観察の視点

本報告にかかる遺物はすべて和泉・鬼高期のものであり、原則として遺構別に表した。但し、鉄製品・石製模造品は一括した。

**観察表各項目** 観察表各項目のうち、番号は実測番号・写真図版番号に対応している。

大きさは/cmで示した。なお坏については、口径・器高、その他の器種については、口径・底径・器高の順で表し、残存値の場合はその数値を( )で、推定値の場合は< >でくくった。また計測不能の時は一とした。

備考欄の各個体の遺存量は、実測図で表現されている部分に対しての大きな残存部の割合を記した。遺存率が低いものについては破片を180°回転して実測し②と記した。赤彩と黒色処理は網ふせで表した。SGa-nは整理番号である。

色調については、㊦=外面 ㊧=内面 ㊨=器肉で表した。

**成形手法の特徴** 成形手法の特徴に関しては、縮小された実測図からでも容易に読みとることが出来ると思われる事項については極力省略し、口端の形状等実測図からは読みとることが容易ではない、または実測では表現できないと思われる事項についてのみ記述するようにした。

**調整手法の特徴** 調整に関しては、ナデ、ヨコナデA（器形に沿った定方向のナデで指によると思われるもの ヨナAと略記）、ヨコナデB（同様に軟質の木口状工具等によると思われるもの ヨナBと略記 注1）、ヘラ削り（ヘラ状工具により粘土のケズリ取りを行なったもの ヘケと略記）、ヘラ磨き（ヘラ状工具又はそれに類似するものにより粘土の表面を撫でて緻密にしたもの ヘミと略記）、ヘラナデ（ヘラ状工具又はそれに類似するものにより粘土の表面を撫でたもの ヘナと略記）、ヘラ回し削り（ヘラ状工具により、器形に沿って工具を回しながら粘土の削り取りを行なったもの マケと略記）、絞り目（粘土円筒等を絞り込み径を小さくする成形によって内側に出来た皺 シメと略記）で表した。なお、回転を伴う動作の回転方向の記載については、内面は上から、底面や脚内は下からの観察により、時計方向・反時計方向をそれぞれ（順）（逆）と略記した。ケズリの方向について一般的には→で表し、中型大形の器種等の定方向の整然としたケズリの場合は←で省略・代表させて表した。

**実測図の表記法** 実測図は、原則として遺物の外形・中心線と調整の変換点を実線で表し、器形の変換点を破線で表した。両者が重複するときは実線とした。同一の工具による調整の場合でも工具の種類等により明確に単位が明らかなき場合は弱い実線で示した（有段坏等）。輪積み痕は観察できるもののみ表現したので、不明な

ものについては単位が荒くなっている。また土師器は断面図を白ヌキで、須恵器は黒ヌリで表した。

#### 土器胎土の特徴

土器の胎土に含まれる岩石や鉱物は原料粘土の違いに起因する産地の差（予め粘土を構成している成分）と、製作対象・製作主体の違いによる材料素地の使い分け・素地の作り方（補助材料としての混和材）を反映すると考えられる。

ここでは肉眼で観察できる範囲の鉱物等を、報告者が判定して記した。以前から指摘されていることではあるが本地域の土器には、混和材として片岩のかなり大きな粒子が原料粘土に含まれる傾向がある。また当遺跡付近の基盤礫層にはチャートのかかなり円磨した粒子が含まれていることが発掘時の基本土層観察によって明らかとなっている（注2）。この様なことから胎土中に含まれる鉱物なども風化＝円磨の度合や形状を考慮して、原料中の混合物、砂、鉱物・岩石の破砕によるものが、ある程度区別しようと考えられたので詳細に観察を行ってみた。

#### 鉱物等の略記法

胎土に含まれる鉱物等の略記法は以下の通りでこの順に記号で記した。

|       |                                                                                   |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 岩石・鉱物 | c：チャート、s：片岩、q：石英、or：長石、h：角閃石<br>m：雲母、r：赤色粒子、un：不明粒子（ただしnは色<br>b：黒 r：赤 w：白 n：灰）と略記 |
| 大きさ   | ／mmで表示                                                                            |
| 風化度   | a：未風化・角張った b：やや風化・やや丸みを帯びた<br>c：風化・丸い                                             |
| 量     | 1：微量 2：少量 3：多少 4：やや多量 5：多量                                                        |

例 q (5b3) 5mm位のやや風化した石英を多少含む

なお、総体としての混和材の量が特徴ある時は“混微”あるいは“混多”のように記した。（大屋道則）

**注1** 土曜考古学研究会1986年12月例会 鈴木徳雄氏の口頭発表“鬼高式と須恵器模倣形式（予察）”に準拠する。同氏は、従来ヨコナデとして一括されていた調整法のなかから新たに“ヘラカキ”として指によるヨコナデと差異化した一群の調整法のあることを明らかにし、1. 工具の先端を用いるもの 2. 工具の木口を用いるものの2つに細分し更に当該型式の系統的変遷と製作の体系のなかでの意義を明らかにしようとしている。

**注2** 稀に胎土中に含まれているチャート粒は全て円磨していることが観察されている。

## 2. 出土遺物観察表

表-1 第1号住居址出土遺物観察表 (第1図)

| 番号 | 器種      | 大きさ                   | 成形手法の特徴                                                 | 調整手法の特徴                                                       | 胎土・色調                                    | 備考                               |
|----|---------|-----------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------|
| 1  | 埴       | 13.3<br>5.4           | 口縁は内湾 底面はやや平<br>口端は丸い                                   | 口縁はヨナB 内面はナデ→<br>ヘナ 外面はヘケ 口縁の調<br>整が先行                        | ④⑤⑥赤褐色<br>非常に堅緻<br>混微                    | 2/3<br>1ー覆土<br>SGa-123           |
| 2  | 坏       | 11.8<br>5.3           | 下半はケズリ出し 口唇はや<br>や内屈 口端は丸い 底部は<br>非常に厚く底部中心が凹む<br>口端は丸い | 内面は口縁ヨナA 口縁～底<br>部ヘケ→ナデ 底部ナデ 外<br>面は口縁～下半ヨナB 下半<br>～底面ヘケ 底面ナデ | ④⑤⑥淡褐色<br>やや脆弱<br>q (3b2) h (2-3)        | 口縁を僅かに<br>欠失<br>1ーNo.2<br>SGa-22 |
| 3  | 埴       | 16.2<br>(4.5)         | 口縁はやや内湾 口端は丸い                                           | 口縁上半内外面ヨナA 内面<br>下半ナデ 外面下半ヘケ 下<br>半～底部ナデ                      | ④⑤⑥褐色<br>非常に堅緻<br>q (3b2) 混微             | 口縁1/5<br>1ー覆土<br>SGa-118 ㊟       |
| 4  | 高坏      | —<br>—<br>(8.9)       | —                                                       | 外面ナデ ヨナB 内面裾ナ<br>デ ヨナB 脚内面強く大き<br>いシメ 裾外面2本1組暗文               | ④⑤⑥赤褐色<br>堅緻 r (3c3)<br>or (2b2)         | 脚<br>1ーNo.4<br>SGa-222           |
| 5  | 高坏      | —<br>—<br>(7.7)       | —                                                       | 外面上位縦位ヘケ 横位指に<br>よる押し付け ナデ 脚内面<br>やや強く大きなシメ ナデ                | ④⑤⑥赤褐色<br>堅緻 q (2b3)<br>or (1b2) r (3c3) | 脚<br>1ーNo.6<br>SGa-223           |
| 6  | 高坏      | (18.8)<br>—<br>(5.7)  | 口端は微かに内屈                                                | 外面は上位からヨナB ナデ<br>横位のヘケ 内面はヨナB<br>ナデ 内面に2本1組の暗文                | ④⑤⑥赤褐色<br>混微 堅緻                          | 坏部1/2<br>1ー覆土<br>SGa-225 ㊟       |
| 7  | 高坏      | (13.2)<br>(9.1)       | 裾端部は微かに内屈して接地                                           | 外面は脚部ナデ 裾ヨナA<br>内面は裾ナデ ヨナA 脚部<br>が強く大きな単位のシメ                  | ④⑤⑥褐色<br>q (2b3) 混微<br>堅緻                | 脚部2/3<br>1ー覆土<br>SGa-221 ㊟       |
| 8  | 鉢       | (10.5)<br>—<br>(5.0)  | 端部は丸い                                                   | 口縁はヨナB 内面はヨナA<br>外面はヨナA ヨナB ヘケ                                | ④⑤⑥褐色<br>h (2b3) 混微<br>堅緻                | 1/6<br>1ー覆土<br>SGa-149 ㊟         |
| 9  | 台付<br>埴 | (13.1)<br>—<br>(7.2)  | 端部は丸い                                                   | 口縁はヨナB 内面はヨナA<br>ナデ 外面はナデ→ヘケ                                  | ④⑤⑥赤褐色<br>q (2b3) 混微<br>堅緻               | 1/6<br>1ー覆土<br>SGa-119 ㊟         |
| 10 | 甕       | 14.9<br>—<br>(12.7)   | 端部は丸くやや内屈                                               | 口縁はヨナB 内面はヨナA<br>ナデ 外面はヘケ                                     | ④⑤⑥褐色～黒<br>色 q (3b4)<br>s (5b4) 混多       | 3/4<br>1ー覆土<br>SGa-242           |
| 11 | 甕       | —<br>(6.0)<br>(4.0)   | 底部は平                                                    | 内面はヘナ 外面はナデ→ヘ<br>ケ 底面はヘケ                                      | ④褐色⑤⑥黒褐<br>色 q (3b3)<br>or (2b2) 堅緻      | 1/2<br>1ー覆土<br>SGa-148           |
| 12 | 甕       | 16.7<br>(5.4)<br>26.3 | 端部はやや内屈 やや上げ底                                           | 口縁部はヨナB 内面はヘナ<br>ナデ 外面はナデ→ヘケ 底<br>面はヘケ                        | ④⑤⑥黒褐色<br>q (4b3) c (4c3)<br>r (4c2)     | 胴下半多少欠<br>1ーNo.8<br>SGa-241      |

表-2 第2号住居址出土遺物観察表 (第2図)

| 番号 | 器種 | 大きさ           | 成形手法の特徴                       | 調整手法の特徴                        | 胎土・色調                | 備考             |
|----|----|---------------|-------------------------------|--------------------------------|----------------------|----------------|
| 1  | 埴  | 12.0<br>(4.2) | 口端は丸く外側にやや肥厚<br>口端はやや丸い 口縁から底 | 口唇内外面ヨナA 内面口縁<br>ヨナA 底面ナデ 外面口縁 | ④⑤⑥黒色処理⑥淡<br>褐色～黒色⑥褐 | 口縁1/4<br>2aー覆土 |

|    |   |                        |                                  |                                                               |                                                 |                             |
|----|---|------------------------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-----------------------------|
|    |   |                        | 面にかけてやや凹凸が激しい                    | ヨナ B 口縁→底部ナデ→ヘケ 口縁下半ヘラキズ(逆)                                   | 色 非常に堅緻<br>q(3b2)h(2a3)                         | SGa-8 ㊞                     |
| 2  | 坏 | 11.4<br>5.5            | 口端は丸い 全体に厚い                      | 口縁内外面ともヨナ A 内面は底部のみナデ 外面は口縁と底部の境がヨナ B 底部がヘケ                   | ㊞㊞㊞淡褐色<br>やや脆弱<br>q(2b3)or(1b2)<br>c(4c2)s(8b3) | 完形<br>2a-No.18<br>SGa-23    |
| 3  | 坏 | 12.2<br>5.8            | 口端は丸い 全体に厚い 底面がやや凹む              | 口縁内外面ともヨナ A 内面底部はナデ 外面底部はヘケ                                   | ㊞㊞㊞淡褐色<br>やや脆弱<br>q(2b3)s(4b3)                  | 完形<br>2a-No.13<br>SGa-25    |
| 4  | 坏 | 10.8<br>6.2            | 口端は丸い 全体に厚い 底部中央が凹む 底部中央にヘラキズ(順) | 口縁内外面ともヨナ A 内面底部はヘケ→ナデ 外面はヘケ                                  | ㊞㊞㊞淡褐色<br>やや脆弱<br>q(4b3)s(4c3)                  | 完形<br>2a-No.17<br>SGa-24    |
| 5  | 壙 | 12.8<br>(4.1)          | 口端はやや尖る                          | 口端はヨナ A 内面は口縁上半がヨナ A 下半がヘケ→ナデ 外面は上半ナデ 下半ヘケ                    | ㊞黒色処理㊞淡褐色～黒色㊞灰黒色 やや堅緻<br>q(3b3)or(2b2)          | 口縁1/4<br>2a-覆土<br>SGa-117 ㊞ |
| 6  | 壙 | 10.0<br>5.2            | 口端はやや外側に肥厚 内面下半にマケの痕跡が顕著         | 内面はヘケ→上半のみヨナ B 口端から外面上部はヨナ A 以下はヘケ                            | ㊞㊞淡褐色～黒色㊞褐色<br>q(3b3)s(8b3)                     | 3/4<br>2a-No.22<br>SGa-115  |
| 7  | 坏 | 13.0<br>4.6            | 口端はやや丸く 底部中央はやや凹む                | 口唇はヨナ A 内面口縁はヨナ B 底部は上半ヨナ A 下半ナデ 外面口縁はヨナ B 底部はナデ→ヘケ           | ㊞㊞黒色処理㊞淡褐色<br>やや軟質<br>剝落が激しい<br>混微              | 1/2<br>2a-覆土<br>SGa-7       |
| 8  | 坏 | 13.6<br>(3.8)<br>(4.0) | 口端は面をなす                          | 口唇はヨナ A 内面口縁はヨナ A 底部はナデ 外面口縁上半はヨナ A 下半はヨナ B 底部はナデ→ヘケ          | ㊞㊞㊞暗赤色<br>堅緻 やや剝落<br>混微                         | 1/5<br>2a-覆土<br>SGa-2 ㊞     |
| 9  | 坏 | 13.3<br>4.7            | 口端はやや尖る 底部中心は凹む                  | 口唇はヨナ A 内面は口縁がヨナ A 底部がナデ 外面は口縁上半がヨナ A 下半がヨナ B 底部がナデ→ヘケ        | ㊞㊞㊞赤色<br>やや軟質<br>q(3b3)or(2b3)<br>h(3-3)        | 完形<br>2a-No.20<br>SGa-18    |
| 10 | 坏 | 12.0<br>4.6            | 口端はやや丸い 底部中心は凹む                  | 口唇ヨナ A 内面口縁ヨナ A 底部上位からヨナ B ヨナ A ナデ 外面口縁上半ヨナ A 下半ヨナ B 底部がナデ→ヘケ | ㊞㊞褐色㊞褐色<br>～灰黒色<br>脆弱 混微                        | 口縁一部欠失<br>2a-No.11<br>SGa-4 |
| 11 | 坏 | 14.1<br>5.1            | 口端はやや丸い                          | 口唇はヨナ A 内面は口縁ヨナ B 底部は上位からヨナ A ナデ 外面は口縁がヨナ B 底部がナデ→ヘケ          | ㊞㊞㊞褐色<br>r(3c3)c(3c1)<br>混微                     | 完形<br>2a-No.19<br>SGa-11    |
| 12 | 坏 | 13.6<br>4.6            | 口端はやや丸い                          | 口唇ヨナ A 内面口縁から底部上位ヨナ A 下位ナデ 外面は口縁上位がヨナ A 下位がヨナ B 底部はナデ→ヘケ      | ㊞㊞㊞褐色 やや硬質やや剝落<br>q(2b3)h(2-3)                  | 完形<br>2a-No.8<br>SGa-12     |
| 13 | 坏 | 12.5<br>4.7            | 口端は丸い                            | 口唇はヨナ A 内面は口縁がヨナ B 底部が上位からヨナ A ナデ 外面は口縁がヨナ B 底部がナデ→ヘケ         | ㊞㊞㊞橙褐色<br>やや剝落<br>混微                            | 完形<br>2a-No.14<br>SGa-10    |

|    |         |                       |                                               |                                                     |                                                                     |                                     |
|----|---------|-----------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 14 | 坏       | 13.4<br>(3.6)         | 口端はやや丸い                                       | 口唇はヨナA 内面はヨナA<br>外面は口縁がヨナB 底面が<br>ナデ→ヘケ             | ⑨⑩⑪褐色 剥<br>落が激しい<br>q (1c2)                                         | 口縁1/10<br>2a—覆土<br>SGa-145 ㊟        |
| 15 | 坏       | 11.9<br>4.0           | 口端に面を持つ                                       | 口縁はヨナB 内面底面はヨ<br>ナA 外面底面はナデ→ヘケ                      | ⑨⑩⑪褐色<br>q (2b3) h (2-3)                                            | 1/5<br>2a—覆土<br>SGa-105 ㊟           |
| 16 | 手捏<br>ね | 7.9<br>4.7<br>4.9     | やや上げ底                                         | 内面は指によるナデ下ろし<br>外面はナデ 底面もナデ                         | ⑨⑩⑪褐色<br>q (2b2) s (3c3)                                            | 口縁を僅か欠<br>2a—No.23<br>SGa-120       |
| 17 | 手捏<br>ね | 7.8<br>3.6<br>4.4     | 口縁は内側に折り返し 多少<br>凹凸のある平底                      | 内面は指によるナデ下ろし<br>外面はナデ 底面もナデ                         | ⑨⑩⑪褐色<br>q (3b3) or (2b2)<br>s (5b2)                                | 口縁を僅か欠<br>2a—No.6<br>SGa-121        |
| 18 | 鉢       | 20.4<br>—<br>8.4      | 口唇はやや肥厚 底部は緩や<br>かに湾曲                         | 口縁はヨナA 内面はヘナ<br>ナデ 外面はヘケ                            | ⑨⑩⑪濃褐色<br>q (3c3) s (8b3)<br>脆弱                                     | 口縁を僅か欠<br>2a—No.10<br>SGa-208       |
| 19 | 鉢       | 13.9<br>—<br>8.2      | 口唇は外側に僅かに肥厚                                   | 口縁はヨナA 内面はヨナB<br>ナデ 外面はヨナB ヘケ<br>内面は剥落が激しく観察が困<br>難 | ⑨⑩⑪淡褐色⑨⑩褐<br>色 q (2b2)<br>or (3b2) c (3c2)<br>s (3c2) r (4c3)<br>軟質 | 体部僅か欠<br>2a—No.7<br>SGa-205         |
| 20 | 小型<br>甕 | 13.3<br>5.5<br>14.2   | 僅かな底面をヘケによって作<br>り出す 体部内面に輪積み痕<br>を多少残す       | 口縁はヨナA 内面はナデ<br>外面はヨナB ヘケ 底面は<br>ヘケ                 | ⑨⑩⑪褐色<br>q (3b3) s (4b4)<br>混多                                      | 口縁1/2 欠失<br>2a—No.21<br>SGa-207     |
| 21 | 甕       | (20.8)<br>—<br>(4.9)  | 内外面に僅かに輪積み痕を残<br>す 口唇は外側にやや肥厚                 | 口縁はヨナA 内面はヘナ<br>外面はナデ→ヘケ                            | ⑨⑩⑪赤褐色<br>q (1b2) h (2-2)<br>r (3c3) やや軟                            | 口縁1/4<br>2a—覆土<br>SGa-254 ㊟         |
| 22 | 甕       | 13.2<br>—<br>7.1      | 口唇は外側に微かに肥厚                                   | 口縁はヨナB 内面はナデ<br>外面はヘケ                               | ⑨⑩⑪茶褐色<br>q (4b2) s (4c2)                                           | 口縁1/4<br>2a—カマド<br>SGa-144 ㊟        |
| 23 | 甕       | —<br>(6.7)<br>(1.6)   | 底部は微かに上げ底 底部内<br>面外周が僅かに凹む                    | 内面はヘケ 外面はヘナ 底<br>面はヘケ→ナデ                            | ⑨⑩⑪淡褐色<br>r (2c3)                                                   | 底部<br>2a—覆土<br>SGa-147              |
| 24 | 甕       | —<br>(7.5)<br>(2.2)   | 底部はやや上げ底                                      | 内面はナデ 外面はナデ→ヘ<br>ケ 底面はヘケ                            | ⑨⑩⑪褐色⑨⑩赤褐<br>色⑨⑩濃褐色<br>q (3a3) s (4b3)                              | 底部<br>2a—覆土<br>SGa-146 ㊟            |
| 25 | 甕       | (13.9)<br>—<br>(14.5) | 口唇はやや丸い                                       | 口縁はヨナA 内面はヘナ<br>外面はヘケ                               | ⑨⑩⑪赤褐色<br>q (2b2) or (2b2)<br>s (3c2) 軟質                            | 口縁1/4<br>2a—覆土<br>SGa-255 ㊟         |
| 26 | 甕       | 13.4<br>6.9<br>12.4   | 口唇はやや丸い 底面はケズ<br>リ出し中央がやや凹む                   | 口縁はヨナA 内面はヘナ<br>外面はヨナB ヘケ 底面は<br>ヘケ                 | ⑨⑩⑪赤褐色<br>q (3a3) s (4b3)<br>混多                                     | 口縁を微かに<br>欠失<br>2a—No.12<br>SGa-201 |
| 27 | 甕       | 17.9<br>5.6<br>14.6   | 口唇はやや丸い 円孔はヘラ<br>による内側からの切取り 内<br>面に輪積み痕が多少残る | 口縁はヨナA 内面はヘナ<br>狭幅のヘナ 外面はヨナB<br>ヘケ 底面はヘケ            | ⑨⑩⑪黒色⑨⑩褐色<br>q (3a3) or (3c2)<br>s (7b3) 混多                         | 完形<br>2a—No.24<br>SGa-206           |
| 28 | 甕       | 22.1                  | 口唇は外側に肥厚 裾は丸い                                 | 口縁はヨナA 内面は上位か                                       | ⑨⑩⑪褐色～赤                                                             | 完形                                  |

|  |  |             |                                               |                               |                     |
|--|--|-------------|-----------------------------------------------|-------------------------------|---------------------|
|  |  | 7.9<br>25.4 | ら縦位ヘミ 斜位ヘケ 横位<br>ヘケ 外面は上位からヨナB<br>ヘケ ヘミ 横位のヘケ | 褐色 q (3b3)<br>s (4b3) r (3c3) | 2a-No.16<br>SGa-209 |
|--|--|-------------|-----------------------------------------------|-------------------------------|---------------------|

表-3 第2b号住居址出土遺物観察表 (第3図)

| 番号 | 器種      | 大きさ               | 成形手法の特徴                                    | 調整手法の特徴                                        | 胎土・色調                                         | 備 考                         |
|----|---------|-------------------|--------------------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-----------------------------|
| 1  | 高坏      | —<br>—<br>(6,6)   |                                            | 内面強く大きなシメ→微かに<br>マケ(逆) ヨナB ヨナA<br>外面ナデ ヨナB ヨナA | ⑨⑩⑪赤褐色<br>q (4b2) s (3b2)<br>m(1-3) 硬質        | 2/3<br>2b-No.2<br>SGa-128 ㊟ |
| 2  | 甕       | —<br>6.1<br>(2,7) | 底面は微かに上げ底                                  | 内面はヘナ 外面はナデ→ヘ<br>ケ 底面はヘケ 脆弱                    | ⑨⑩⑪淡褐色<br>q (1b3) or (1b2)<br>s (4b2) r (2c2) | 底部<br>2b-覆土<br>SGa-143      |
| 3  | 手捏<br>ね | 7.8<br>3.4<br>5.4 | 端部は内側から粘土を少し張<br>り付ける 底部はおおむね平<br>底で刺突痕がある | 内面は指によるナデおろし<br>外面はナデ 底面もナデ                    | ⑨⑩⑪濃褐色<br>q (3b3) or (2b2)<br>s (4b2)         | 完形<br>2b-No.4<br>SGa-114    |

表-4 第3a号住居址出土遺物観察表 (第4図)

| 番号 | 器種 | 大きさ                  | 成形手法の特徴                        | 調整手法の特徴                                         | 胎土・色調                                    | 備 考                           |
|----|----|----------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------|
| 1  | 坏  | 14.1<br>4.5          | 口唇はやや突る 底部中央が<br>凹む            | 口唇ヨナA 内面ヨナA ヨ<br>ナB ヨナA ナデ 外面<br>口縁ヨナB 底部ナデ→ヘケ  | ⑨⑩⑪橙色 脆<br>弱 q (2c2)<br>混微               | 口縁一部欠失<br>3a-No.5<br>SGa-1    |
| 2  | 坏  | 12.2<br>(3,0)        | 口唇はやや丸い                        | 口唇はヨナA 内面はヨナB<br>外面は口縁がヨナB 底部が<br>ナデ→ヘケ         | ⑨⑩⑪褐色 や<br>や硬質 q (1b2)<br>混微             | 1/5<br>3a-覆土<br>SGa-139       |
| 3  | 坏  | 14.4<br>4.0          | 口唇丸い 底部が盤状 底面<br>内部にヘラキズが残る(逆) | 口唇ヨナA 内面口縁ヨナB<br>底部ヨナA ナデ 外面口縁<br>ヨナB 底部ナデ→ヘケ   | ⑨⑩⑪濃褐色<br>堅緻 q (2b1)<br>h (2-2) 混微       | 口縁2/3欠失<br>3a-No.7<br>SGa-9   |
| 4  | 坏  | 12.7<br>(4,0)        | 口唇は丸く外半                        | 口唇ヨナA 内面口縁ヨナA<br>底部ナデ 外面口縁ヨナA<br>ヨナB 底部ナデ→ヘケ    | ⑨⑩⑪橙色⑩灰白<br>色 やや硬質<br>混微                 | 1/5<br>3a-No.8<br>SGa-5       |
| 5  | 坏  | 13.5<br>4.2          | 口唇は丸く外半                        | 口唇ヨナA 内面口縁→底部<br>上半ヨナA 下半ナデ 外面<br>口縁ヨナB 底部ナデ→ヘケ | ⑨⑩⑪橙色 や<br>や軟質 q (2b2)<br>混微             | 1/2<br>3a-No.6<br>SGa-6 ㊟     |
| 6  | 坏  | 12.7<br>(2,8)        | 口唇は丸く外半                        | 口唇ヨナA 内面口縁ヨナA<br>底部ヨナA 外面口縁ヨナB<br>底部ナデ→ヘケ       | ⑨⑩⑪褐色⑩灰色<br>脆弱 混微                        | 口縁1/8<br>3a-覆土<br>SGa-142 ㊟   |
| 7  | 坏  | 12.8<br>4.9          | 口唇は外側に向かってのびる<br>底部内面は凹みへう傷有り  | 内面上位ヨナA 下位ヘケ→<br>ナデ 外面口縁ヨナA 口縁<br>底境ヨナB 底部ヘケ→ナデ | ⑨⑩⑪褐色<br>q (2b2) s (3b4)                 | 1/5欠失<br>3a-No.11<br>SGa-26   |
| 8  | 壺  | 〈11.3〉<br>—<br>(3,2) | 口唇は内屈                          | 内面はヨナB 外面はヨナB<br>ヨナA ナデ                         | ⑨⑩⑪赤褐色<br>q (3a3) or (1c3)<br>s (3b2) 硬質 | 口縁1/8<br>3a-No.9<br>SGa-140 ㊟ |
| 9  | 甕  | —<br>〈6.5〉<br>(2,3)  | 底部は平                           | 内面はヘナ 外面はヘケ 底<br>部はヘケ→ナデ                        | ⑨⑩⑪赤褐色<br>q (5a3) or (2a2)<br>s (8b4)    | 底部1/4<br>3a-覆土<br>SGa-141 ㊟   |
| 10 | 甕  | 〈22.3〉               | 端部やや内屈                         | 口縁はヨナB 内面はナデ                                    | ⑨⑩⑪褐色                                    | 口縁1/6                         |

|    |          |                 |                                                                                                                                                                                                                                         |                              |                           |
|----|----------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|---------------------------|
|    |          | —<br>(8.4)      | 外面はヘケ                                                                                                                                                                                                                                   | q (3a3) or (2b2)<br>s (5b2)  | 3 a-No.9<br>SGa-253 ㊟     |
| 11 | 須恵<br>器題 | —<br>—<br>(8.5) | 底面は丸く体部上から1/3位に最大径を持ち上半はやや扁平<br>下半は球形 肩部には明瞭な稜と1条の沈線が入る 頸部は<br>やや細い 体部中央に櫛描列点文を頸部に櫛描波状文 円孔<br>内側には粘土のはみ出しが外側には剝落が認められる 列点<br>文施文後に上下に沈線を巡らす 内面は頸部指によるヨナA<br>体部ヘラによるヨナ 底部指によるヨナA 外面は頸部体部<br>上半は指によるヨナA 体部下半以下はヘケ→ナデ 成形時<br>列点文施文時のログロ(順) | ㊟㊟㊟㊟㊟㊟㊟㊟<br>q (2b2) 焼成良<br>好 | 体部<br>3 a-No.2<br>SGa-109 |

表-5 第3b号住居址出土遺物観察表 (第5・6図)

| 番号      | 器種 | 大きさ                 | 成形手法の特徴                     | 調整手法の特徴                                                          | 胎土・色調                                                             | 備 考                              |
|---------|----|---------------------|-----------------------------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 1<br>図5 | 坏  | 13.0<br>4.2         | 口唇は緩く外平                     | 口唇ヨナA 内面口縁ヨナB<br>底面ヨナA ナデ 外面口縁<br>ヨナB 底部ナデ→ヘケ 外<br>面底部ヘラのスリップ痕顕著 | ㊟㊟㊟㊟㊟㊟㊟<br>色 q (1c1)<br>混微                                        | 1/5<br>3 b-覆土<br>SGa-3           |
| 2       | 坏  | 12.7<br>5.5         | 口唇は素直に内傾                    | 口唇から内面上位にかけてヨ<br>ナA 下位はナデ 外面は風<br>化が激しく判別不能                      | ㊟㊟㊟㊟㊟㊟<br>赤褐色<br>q (2b2) r (3c3)                                  | 1/4<br>3 b-覆土<br>SGa-122         |
| 3       | 鉢  | 19.1<br>(4.5)       | 口唇はやや尖る                     | 口唇はヨナA 内面はナデ<br>外面はナデ→ヘケ                                         | ㊟㊟㊟㊟㊟<br>褐色<br>q (2c3) s (6b2)<br>h (3b2)                         | 1/10<br>3 b-覆土<br>SGa-150        |
| 1<br>図6 | 甕  | 12.6<br>4.5<br>15.9 | 口唇は丸く外側にやや肥厚                | 口縁はヨナB 内面はヘナ<br>ナデ 外面はナデ→ヘケ 底<br>面はヘケ                            | ㊟㊟㊟㊟㊟㊟<br>濃赤褐色<br>q (3b3) s (4b3)<br>ub(ab3) やや硬<br>質             | 口縁脚一部欠<br>失<br>3 b-覆土<br>SGa-215 |
| 2       | 甕  | 13.7<br>—<br>(6.3)  | 口唇は丸く外側に肥厚                  | 口縁はヨナA 内面はヨナB<br>ヘナ 外面はヨナB ヘケ                                    | ㊟㊟㊟㊟㊟<br>淡褐色<br>q (2b3) s (5b3)<br>r (3b3) 脆弱                     | 口縁1/6<br>3 b-覆土<br>SGa-256 ㊟     |
| 3       | 甕  | —<br>(9.8)<br>(4.2) | 底部は平                        | 内面はヘナ 外面はヘケ ナ<br>デ 底面はヘケ                                         | ㊟㊟㊟㊟㊟<br>淡褐色<br>q (3c3) or (2b2)<br>h (2a3) r (2c2)<br>c (2c2) 混多 | 底部1/3<br>3 b-覆土<br>SGa-257 ㊟     |
| 4       | 甕  | 24.3<br>8.2<br>21.4 | 口唇は丸く内側に微かに肥厚<br>輪積み痕が多少のこる | 口縁はヨナB 内面は縦位ヘ<br>ケ 斜位ヘケ 外面はナデ→<br>縦位ヘケ                           | ㊟㊟㊟㊟㊟<br>赤褐色<br>q (2b3) s (5c2)<br>脆弱                             | 口縁脚一部欠<br>3 b-No.1<br>SGa-216    |
| 5       | 甕  | 19.6<br>—<br>(26.0) | 口唇は丸く外側にやや肥厚                | 口縁はヨナA 内面はナデ<br>斜位のヘケ ナデ 外面はヨ<br>ナB ナデ→ヘケ                        | ㊟㊟㊟㊟㊟<br>黒褐色<br>q (2b3) s (4b3)<br>r (3c3) h (2-2)                | 2/3<br>3 b-覆土<br>SGa-240         |
| 6       | 甕  | 20.6<br>—<br>(31.5) | 口唇は外側にやや肥厚                  | 口縁はヨナB 内面はヘナ<br>ナデ 外面はヘケ                                         | ㊟㊟㊟㊟㊟<br>褐色→黒<br>色 q (2b3)<br>or (2b2) h (2a4)                    | 3/4<br>3b-カマドNo.1<br>SGa-245     |
| 7       | 甕  | 16.8<br>4.9<br>37.9 | 口唇は外側にやや肥厚 内面<br>にやや輪積み痕を残す | 口縁はヨナB 内面はヘナ<br>ナデ 外面はヘケ                                         | ㊟㊟㊟㊟㊟<br>赤褐色<br>q (2b3) s (5b3)                                   | 完形<br>3 b-No.2<br>SGa-246        |

表-6 第4a号住居址出土遺物観察表 (第7図)

| 番号 | 器種 | 大きさ                   | 成形手法の特徴                                     | 調整手法の特徴                                           | 胎土・色調                                      | 備考                                 |
|----|----|-----------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------|
| 1  | 坏  | (12.9)<br>(3.5)       | 口縁は内傾する面を持つ                                 | 口唇ヨナA 内面口縁ヨナB<br>底部ヨナA ヨナB ヨナA<br>外面口縁ヨナA 底部ナデ→ヘケ | ⑨⑩赤褐色<br>やや硬質<br>q (4b2) 混微                | 口縁1/6<br>4a-覆土<br>SGa-103 ㊟        |
| 2  | 坏  | 12.3<br>3.3           | 口唇に沈線が入る                                    | 口縁はヨナA 内面は底部上<br>位までヨナA 下位がナデ<br>外面は底部がナデ→ヘケ      | ⑨⑩灰褐色<br>外面底部下半以<br>外全て赤彩 や<br>や硬質 q (1b1) | 1/8<br>4a-覆土<br>SGa-20 ㊟<br>所謂比企型坏 |
| 3  | 高坏 | —<br>9.3<br>(5.1)     | 端部は面を持ちふんばる 端<br>部内外に粘土がはみ出す<br>部内面にヘラの痕を残す | 外面はヨナA 内面はナデ<br>ヨナA                               | ⑨⑩赤褐色<br>堅緻 q (1b2)<br>混微                  | 脚部2/3<br>4a-覆土<br>SGa-133          |
| 4  | 高坏 | —<br>(15.8)<br>(3.0)  | 端部はやや尖る                                     | 内外面ともヨナA                                          | ⑨⑩灰褐色<br>堅緻 s (3b3)<br>混微                  | 脚部1/8<br>4a-No.2<br>SGa-151 ㊟      |
| 5  | 甔  | —<br>(6.5)<br>(7.9)   | 端部は平に接地                                     | 内面はナデ→ヘナ 横位ヘケ<br>外面はヘケ ナデ 横位ヘケ<br>端部はヘケ           | ⑨⑩赤褐色<br>q (3b2) h (2b3)<br>混多             | 脚部1/5<br>4a-覆土<br>SGa-152 ㊟        |
| 6  | 甔  | (18.1)<br>—<br>(10.3) | 口唇は外反 内面に輪積み痕<br>を残す                        | 口縁はヨナA 内面はナデ→<br>ヘミ 外面はヘケ                         | ⑨⑩赤褐色<br>q (3a2) s (6a5)<br>混多             | 口縁部1/6<br>4a-覆土<br>SGa-258 ㊟       |
| 7  | 甔  | (17.3)<br>—<br>(33.9) | 口唇は外側に肥厚し外反                                 | 口縁はヨナA 内面はヘケ<br>ナデ 外面は斜位のヘケ 縦<br>位のヘケ             | ⑨⑩赤褐色<br>q (4b4) s (3c4)<br>r (3c5)        | 口縁下半欠<br>4a-カマド<br>SGa-248         |

表-7 第4b号住居址出土遺物観察表 (第8図)

| 番号 | 器種 | 大きさ                  | 成形手法の特徴                 | 調整手法の特徴                                                           | 胎土・色調                               | 備考                         |
|----|----|----------------------|-------------------------|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------|
| 1  | 埴  | 6.9<br>(3.7)         | 口唇はやや尖る                 | 口縁はヨナB 内面はナデ<br>外面はナデ→ヘケ                                          | ⑨⑩赤褐色 や<br>や堅緻 やや剥<br>落 q (5a1)     | 1/5<br>4b-覆土<br>SGa-156 ㊟  |
| 2  | 埴  | 10.2<br>(4.7)        | 口唇はやや尖る                 | 口縁はヨナB 内面はナデ<br>外面はヘケ                                             | ⑨⑩赤褐色<br>q (2b3) r (5c2)<br>s (4b2) | 1/5<br>4b-覆土<br>SGa-155 ㊟  |
| 3  | 埴  | 10.0<br>(3.3)        | 口縁は尖りやや内屈               | 内面は口縁ヨナA 以下ナデ<br>外面口縁ヨナB 以下ヨナA<br>ヘケ                              | ⑨⑩赤褐色<br>やや堅緻<br>r (2c3)            | 1/7<br>4b-覆土<br>SGa-154 ㊟  |
| 4  | 高坏 | 16.0<br>—<br>(5.5)   | 口唇に沈線が1本はいる             | 内面ヨナA 外面ヨナA 横<br>位ヘケ ナデ 坏脚接合部ヨ<br>ナA 脚外面ナデ 脚内弱い<br>小さなシメ 連続マケ (順) | ⑨⑩赤褐色<br>q (2b3) s (6b3)            | 坏部脚部1/2<br>4b-5<br>SGa-227 |
| 5  | 埴  | 18.0<br>4.4          | 口縁は尖る                   | 口縁はヨナB 内面はナデ<br>外面は 上位がヘナ 下位が<br>ヘケ                               | ⑨⑩赤褐色 や<br>や脆弱 q (1b2)<br>混微        | 1/10<br>4b-覆土<br>SGa-157 ㊟ |
| 6  | 高坏 | —<br>(13.9)<br>(3.4) | 端部は内面で接地 端部外面<br>に平面を持つ | 外面は上位からナデ ヨナA<br>端部内面はナデ ヨナA 脚<br>部内面は連続的なマケ (順)                  | ⑨⑩赤褐色<br>q (1b3) s (3b2)<br>h (2b1) | 1/5<br>4b-覆土<br>SGa-153 ㊟  |

|   |     |                       |      |                                                |                                 |                             |
|---|-----|-----------------------|------|------------------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|
| 7 | 手握ね | —<br>4.6<br>(3.3)     | 底部は平 | 内面指ナデ下ろし 外面ヘケ<br>→ナデ 底面ヘケ→ナデ 器<br>面の風化が激しく観察困難 | ㉔㉕㉖赤褐色<br>q (3b4) s (4a4)<br>混多 | 4/5<br>4b—覆土<br>SGa-158     |
| 8 | 甌   | —<br>(10.3)<br>(11.3) |      | 内面はナデ 横位ヘケ 外面<br>は縦位ヘケ 横位ヘケ 端部<br>はヨナA         | ㉔㉕㉖濃褐色<br>q (3b2) s (5c3)       | 1/3<br>4b—No.4<br>SGa-203 ㉔ |

表一 8 第5a号住居址出土遺物観察表 (第9図)

| 番号 | 器種 | 大きさ                   | 成形手法の特徴                        | 調整手法の特徴                                        | 胎土・色調                                         | 備 考                          |
|----|----|-----------------------|--------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------|------------------------------|
| 1  | 坏  | 12.7<br>(3.8)         | 口端に水平な面を持つ                     | 口縁はヨナB 底面は内面上<br>位ヨナA 下位ナデ 外面ナ<br>デ→ヘケ         | ㉔㉕㉖茶褐色<br>やや脆弱<br>q (3b2) 混微                  | 1/4<br>5a—No.5<br>SGa-102 ㉔  |
| 2  | 坏  | 13.7<br>4.5           | 口唇は沈線の入るやや内傾す<br>る面を持つ 底部中央が凹む | 口唇ヨナA 内面口縁ヨナB<br>底部風化により不明 外面口<br>縁ヨナB 底部ナデ→ヘケ | ㉔㉕㉖赤褐色<br>q (1c3) h (2b2)                     | 口縁1/2欠失<br>5a—No.3<br>SGa-19 |
| 3  | 坏  | 12.7<br>(3.7)         | 口唇はやや丸い                        | 口縁はヨナB 内面は底部上<br>位ヨナB 下位ヨナA 外面<br>底部はナデ→ヘケ     | ㉔㉕㉖赤褐色<br>やや硬質<br>r (3c4) 混微                  | 1/5<br>5a—No.2<br>SGa-101 ㉔  |
| 4  | 坏  | 10.6<br>4.5           | 口唇はやや外反                        | 口縁はヨナA 内面はナデ<br>外面はナデ→ヘケ 底面はヘ<br>ケ             | ㉔㉕㉖褐色 脆弱<br>剥落が顕著<br>q (1b2) r (2c3)          | 3/4<br>5a—No.1<br>SGa-134    |
| 5  | 甕  | 10.4<br>—<br>5.7      | 口唇は外側に肥厚                       | 口縁はヨナA 内面はナデ<br>外面は不明 全体に剥落が激<br>しく観察困難        | ㉔㉕㉖濃赤褐色<br>q (2b3) s (3a4)<br>混多              | 口縁<br>5a—No.2<br>SGa-231     |
| 6  | 甌  | 〈14.8〉<br>—<br>(4.4)  | 口唇は丸い                          | 口縁はヨナB 胴部は剥落が<br>激しく観察不能                       | ㉔㉕㉖黒褐色㉔赤<br>褐色 q (2b3)<br>s (3b3) h (3-3)     | 口縁1/4<br>5a—No.2<br>SGa-159  |
| 7  | 甕  | 〈17.6〉<br>—<br>(26.7) | 口唇は丸く外側に肥厚                     | 口縁はヨナB 内面は上位か<br>らヘナ ナデ 外面はナデ→<br>ヘケ           | ㉔㉕㉖赤褐色<br>q (4b3) or (3b3)<br>c (3c3) s (6c3) | 2/3<br>5a—覆土<br>SGa-247      |

表一 9 第6a号住居址出土遺物観察表 (第10図)

| 番号 | 器種 | 大きさ         | 成形手法の特徴                  | 調整手法の特徴                                                        | 胎土・色調                                           | 備 考                          |
|----|----|-------------|--------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------|
| 1  | 坏  | 12.7<br>3.7 | 口唇は丸い                    | 口唇ヨナA 内面口縁ヨナB<br>底部ヨナA ナデ 外面口縁<br>ヨナB 底部ナデ→ヘケ                  | ㉔赤褐色㉕褐色<br>やや堅緻<br>剥落が顕著<br>q (1-4) h (2-4)     | 口縁1/4欠失<br>6a—No.2<br>SGa-14 |
| 2  | 坏  | 13.4<br>4.0 | 口唇はやや丸い                  | 口唇はヨナA 内面は口縁ヨ<br>ナB 底部上位からヨナA<br>ナデ 外面口縁上位ヨナA<br>下位ヨナB 底部ナデ→ヘケ | ㉔㉕㉖赤褐色<br>やや堅緻 やや<br>内面底中央剥落<br>q (2-3) h (1-4) | 口縁1/2欠失<br>6a—No.4<br>SGa-15 |
| 3  | 坏  | 12.4<br>4.1 | 口唇は内傾する面で沈線が入<br>る 口縁は厚い | 口唇ヨナA 内面ヨナB ヨ<br>ナA ナデ 外面口縁ヨナ<br>A ヨナB 底部ナデ→ヘケ                 | ㉔㉕㉖褐色<br>やや堅緻 内面<br>剥落 r (2c4)                  | 1/2<br>6a—No.5<br>SGa-17     |
| 4  | 高坏 | 16.1<br>—   | 口唇は外反する                  | 内面ヨナA ナデ 外面ヨナ<br>A 横位ヘケ 縦位ヘケ 全                                 | ㉔㉕㉖赤褐色<br>脆弱 q (3c3)                            | 1/2<br>6a—No.3               |

|    |    |                      |                                       |                                           |                                                            |                             |
|----|----|----------------------|---------------------------------------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-----------------------------|
|    |    | (4.3)                |                                       | 体に風化が激しく観察が困難                             | or (1b3) c (3c4)                                           | SGa-226                     |
| 5  | 高坏 | —<br>(13.9)<br>(4.0) | 端部は強く屈曲してふんばる                         | 外面はヘケ ヨナB 内面はナデ ヨナA ヨナB                   | ⑨⑩赤褐色<br>脆弱 q (1c2)<br>c (8c1)                             | 脚部1/6<br>6a-No.6<br>SGa-160 |
| 6  | 高坏 | —<br>(11.3)<br>(2.3) | 端部はやや丸く内屈してふんばる                       | 外面ナデ ヨナA 内面ナデ<br>ヨナB ヨナA 端部外面に<br>2本1組の暗文 | ⑨⑩赤褐色<br>堅緻 q (4b2)<br>or (1b3) r (1c3)                    | 端部1/6<br>6a-覆土<br>SGa-161   |
| 7  | 甕  | (19.0)<br>—<br>(9.3) | 口唇はやや内屈 外面に若干の輪積み痕の痕跡                 | 口縁はヨナA 内面はナデ<br>外面はヘケ                     | ⑨⑩濃褐色<br>q (3a4) or (3c4)<br>c (3c4) s (5b4)<br>r (3c3) 混多 | 1/4<br>6a-覆土<br>SGa-200     |
| 8  | 甕  | (19.7)<br>—<br>(4.7) |                                       | 口唇はヨナB 内面はナデ<br>ヨナA 外面はヨナA ヨナ<br>B ナデ     | ⑨⑩赤褐色<br>q (3b3) or (2b3)<br>h (3a3) s (5c3)<br>r (6c2) 混多 | 口縁1/8<br>6a-覆土<br>SGa-259   |
| 9  | 甕  | —<br>7.2<br>(13.0)   | 底部に木葉痕有り 底部内面は凹む 内面には異種の緻密な粘土を張り付けている | 胴部内面はヘナ 底部は剥落により不明 外面はヘケ                  | ⑨灰黒色⑩褐色<br>⑪淡褐色<br>q (3b3) or (2b3)<br>s (4c3) 混多          | 胴底部1/2<br>6a-覆土<br>SGa-237  |
| 10 | 甕  | —<br>4.8<br>(4.4)    | やや上げ底                                 | 内面はナデ 外面はナデ→ヘケ 底面はヘケ 剥落が激しく観察が困難          | ⑨⑩赤褐色<br>q (2b4) or (2b3)<br>s (9c4) 混多                    | 底部<br>6a-No.9<br>SGa-162    |
| 11 | 甕  | 15.5<br>—<br>(9.2)   | 端部はやや外反                               | 口縁はヨナA 内面は縦位ヘナ→横位ヘナ 外面はヘケ                 | ⑨黒色⑩褐色<br>q (3b3) h (3a3)<br>s (5b3)                       | 口縁1/2<br>6a-No.1<br>SGa-202 |

表—10 第6b号住居址出土遺物観察表 (第11図)

| 番号 | 器種  | 大きさ                  | 成形手法の特徴               | 調整手法の特徴                                                        | 胎土・色調                                  | 備考                                |
|----|-----|----------------------|-----------------------|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------|
| 1  | 坏   | 13.0<br>4.1          | 口端は内傾する面を持つ 底部中央はやや凹む | 口端ヨナA 内面口縁上位ヨナB 下位ヨナA 底部上位からヨナB ヨナA ナデ 外面口縁上位ヨナA 下位ヨナB 底部ナデ→ヘケ | ⑨⑩赤褐色<br>やや堅緻<br>q (4b2)               | 1/2<br>6b-No.101<br>SGa-16        |
| 2  | 坏   | 12.4<br>4.6          | 口端は内傾する面を持つ 底部中央はやや凹む | 口端ヨナA 内面口縁～底部上半ヨナB 以下 ヨナA ナデ 外面口縁上位ヨナA 下位ヨナB 底部ナデ→ヘケ           | ⑨⑩赤褐色<br>やや堅緻<br>q (2b3) c (4c2)       | 口縁1/2欠失<br>6b-No.102<br>SGa-13    |
| 3  | 坏   | 12.1<br>3.7          | 口端は内傾する面を持つ           | 口縁ヨナB 内面ヨナA ナデ 外面はヘケ                                           | ⑨⑩赤褐色<br>q (2b1) r (1c3)               | 1/3<br>6b-No.105<br>SGa-106 ㊟     |
| 4  | 手握ね | 6.4<br>3.3<br>3.4    | 口端は丸い                 | 内面ヨナA ナデ 外面ヨナA ヨナB ナデ→ヘケ底面外周横位ヘケ 以下ナデ                          | ⑨⑩褐色<br>堅緻 q (3b3)<br>h (2-3) s (3b4)  | 口縁を一部欠<br>6b-No.103<br>SGa-108    |
| 5  | 鉢   | (10.2)<br>5.5<br>4.6 | 口端は平面で外側に肥厚           | 口唇はヨナA 内面はヘナ 外面はナデ→ヘケ 底部はヘケ                                    | ⑨⑩濃褐色<br>硬質 c (4c3)<br>q (3c3) h (2b3) | 口縁を1/2欠<br>6b-No.104<br>SGa-107 ㊟ |

|   |    |                 |                                                 |                                      |                        |
|---|----|-----------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------|
| 6 | 高環 | —<br>—<br>(6.3) | 環部内面ナデ 脚部外面ヘケ<br>ヘナ 脚部内面弱く大きなシ<br>メ 風化が激しく観察が困難 | ⑨⑩赤褐色⑩灰<br>白色 軟質<br>q (2c3) or (1c2) | 脚部<br>6b-覆土<br>SGa-132 |
|---|----|-----------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------|

表-11 第7号住居址出土遺物観察表 (第12図)

| 番号 | 器種 | 大きさ                  | 成形手法の特徴                       | 調整手法の特徴                             | 胎土・色調       | 備 考                      |
|----|----|----------------------|-------------------------------|-------------------------------------|-------------|--------------------------|
| 1  | 高環 | (17.9)<br>—<br>(5.9) | 口端は丸い 環部口縁と底部<br>の境にやや粘土がはみ出す | 内面はヨナA ナデ 外面は<br>ヨナB ヨナA ヨナB ナ<br>デ | ⑨⑩赤褐色<br>混微 | 1/8<br>7-床直<br>SGa-228 ② |

表-12 第8号住居址出土遺物観察表 (第13図)

| 番号 | 器種      | 大きさ                      | 成形手法の特徴              | 調整手法の特徴                                                                                                         | 胎土・色調                                                  | 備 考                                    |
|----|---------|--------------------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 1  | 鉢       | 13.8<br>7.4              | 口端は尖りやや外反 底部は<br>上げ底 | 口縁ヨナA 内面上位からヨ<br>ナB ヨナA 外面上位から<br>ナデ ヘケ 底面ナデ                                                                    | ⑨⑩赤褐色<br>q (4b3) c (5c2)<br>剥落                         | 口縁1/3欠失<br>8-No.2<br>SGa-27            |
| 2  | 手捏<br>ね | 12.2<br>6.0<br>5.4       | 口端はやや尖る 底部上げ底        | 外面ナデ 内面ヘナ (順)<br>底面はヘケ                                                                                          | ⑨⑩黒褐色<br>q (9a3) s (5b4)<br>混多                         | 口縁一部欠失<br>8-No.6<br>SGa-110            |
| 3  | 埴       | —<br>5.6<br>(2.2)        | 底面は平 内側にヘラキズ有<br>り   | 内面はナデ 外面はヘケ 底<br>面はヘケ→ナデ                                                                                        | ⑨⑩赤褐色<br>堅緻 q (2b2)<br>or (1b2) s (4b3)                | 底部<br>8-No.5<br>SGa-131                |
| 4  | 高環      | (17.6)<br>—<br>(5.0)     | 口端は内側に肥厚             | 端部はヨナB 内面はヨナA<br>外面はヨナA ヨナB 縦位<br>のヘケ                                                                           | ⑨⑩赤褐色<br>堅緻 内面の剥<br>落顕著 q (1b3)<br>or (1b3) s (5b2)    | 口縁1/5<br>8-覆土<br>SGa-213 ②             |
| 5  | 高環      | —<br>—<br>(4.4)          |                      | 内面ヨナA ナデ ヘケ (接<br>合部剥離) 外面ヨナA ヨ<br>ナB ヨナA ヘケ→ナデ                                                                 | ⑨⑩褐色<br>q (3b3) or (1b3)<br>s (5b4) r (3c2)            | 環部1/4<br>8-覆土<br>SGa-127 ②             |
| 6  | 高環      | 17.8<br>12.6<br>15.8     | 口端はやや内屈              | 環部内面ヨナB ヨナA ナ<br>デ 外面ヨナB ヨナA ヨ<br>ナB 横位ヘケ ナデ→ヘナ<br>脚部外面ナデ 裾外面ヨナA<br>ヨナB 内面ヨナA ヨナB<br>脚部内面大きなシメ 環部内<br>面外底裾部外面暗文 | ⑨⑩褐色<br>環部内面剥落顕<br>著 q (3b3)<br>or (2b2) s (5b3)<br>堅緻 | 環部裾部僅か<br>に欠失<br>8-No.3<br>SGa-32      |
| 7  | 台付<br>甕 | (11.8)<br>(10.2)<br>15.2 | 口唇は鈍く丸い              | 甕部内面ヨナB ナデ 外面<br>ヨナB ヘケ 台部外面ヨナ<br>A ナデ ヨナA 内面ナデ<br>ヨナA                                                          | ⑨⑩赤褐色<br>剥落顕著<br>q (1b3) or (1b2)<br>s (5b4) 堅緻        | 甕部1/2欠失<br>台部多少欠失<br>8-No.4<br>SGa-236 |

表-13 第9号住居址出土遺物観察表 (第14図)

| 番号 | 器種 | 大きさ                  | 成形手法の特徴 | 調整手法の特徴                                             | 胎土・色調                                  | 備 考                       |
|----|----|----------------------|---------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------|
| 1  | 高環 | —<br>(12.8)<br>(2.3) | 端部はやや尖る | 外面が上位からナデ ヨナA<br>ヨナB 内面がヨナA ヨナ<br>B s (5b2) r (1c3) | ⑨⑩褐色 硬<br>質 h (2-4)<br>s (5b2) r (1c3) | 裾1/8<br>9-覆土<br>SGa-124 ② |
| 2  | 高環 | —<br>—<br>(6.7)      |         | 脚部外面はナデ 内面は上位<br>から弱く大きな単位のシメ<br>ナデ                 | ⑨⑩淡褐色<br>軟質で剥落が顕<br>著 q (1c3)          | 脚<br>9-No.2<br>SGa-126    |

|   |   |                      |                         |                         |                                                          |                            |
|---|---|----------------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------|----------------------------|
| 3 | 甕 | (12.8)<br>—<br>(3.4) | 端部は内側に肥厚 本庄市二本松遺跡等に類例有り | 内面はナデ 外面は上位から<br>ヨナB ナデ | s (5c4) r (2c4)<br>⑨⑩⑪赤褐色<br>q (4b3) or (4b3)<br>s (4c3) | 口縁1/5<br>9—覆土<br>SGa-125 ㊟ |
|---|---|----------------------|-------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------|----------------------------|

表-14 第10号住居址出土遺物観察表 (第15図)

| 番号 | 器種      | 大きさ                  | 成形手法の特徴               | 調整手法の特徴                      | 胎土・色調                                             | 備考                          |
|----|---------|----------------------|-----------------------|------------------------------|---------------------------------------------------|-----------------------------|
| 1  | 鉢       | 15.6<br>7.0          | 口端はやや尖り外反 底部は上げ底      | 口縁はヨナA 内面はナデ<br>外面は上位からナデ ヘケ | ⑨⑩⑪赤褐色<br>やや堅緻<br>q (3b2) or (2b3)<br>ub (2b3) 堅緻 | 1/2<br>10—覆土<br>SGa-204     |
| 2  | 埴       | (7.7)<br>(2.1)       | 口端は内側にやや肥厚            | 口端はヨナB 内面はヨナA<br>外面はヨナA ヘケ   | ⑨⑩⑪赤褐色<br>堅緻 q (2b2)<br>s (3b3) 混微                | 口縁1/6<br>10—覆土<br>SGa-165 ㊟ |
| 3  | 高坏      | —<br>(11.1)<br>(1.7) | 端部は面をなす               | 外面は上位からナデ ヨナB<br>内面はナデ       | ⑨⑩⑪赤褐色<br>堅緻 q (1b4)                              | 裾1/8<br>10—覆土<br>SGa-164 ㊟  |
| 4  | 高坏      | —<br>(14.8)<br>(2.1) | 端部は僅かに内湾              | 内面はナデ ヨナA 外面は<br>ヨナA         | ⑨⑩⑪褐色 や<br>や剥落 q (1b3)<br>or (1b3) 硬質             | 裾1/4<br>10—覆土<br>SGa-163 ㊟  |
| 5  | 甕       | —<br>(5.9)<br>(2.6)  | 底部は平                  | 内面はナデ 外面はナデ→ヘ<br>ケ 底面はヘケ     | ⑨⑩⑪褐色 内<br>面剥落 混多<br>q (5b4) or (2b3)             | 底部1/4<br>10—覆土<br>SGa-167 ㊟ |
| 6  | 壺       | (9.2)<br>—<br>(6.1)  | 端部は外側に肥厚              | 内面はヨナA ヘナ 外面は<br>ヨナA ヘケ      | ⑨褐色→濃褐色<br>⑩⑪褐色 硬質<br>or (2b4) s (4c4)            | 口縁1/5<br>10—覆土<br>SGa-166 ㊟ |
| 7  | 手握<br>ね | 7.7<br>4.7<br>4.9    | 端部は内側に折り返し 底部<br>は上げ底 | 内面は指によるナデ (順)<br>外面はナデ 底面はナデ | ⑨⑩⑪赤褐色<br>剥落 硬質<br>or (1b4) h (1-4)               | 完形<br>10—覆土<br>SGa-111      |

表-15 第11号住居址出土遺物観察表 (第16図)

| 番号 | 器種      | 大きさ                 | 成形手法の特徴                 | 調整手法の特徴                                         | 胎土・色調                                                      | 備考                               |
|----|---------|---------------------|-------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 1  | 埴       | 10.4<br>4.7         | 口縁は非常に薄く外反してい<br>る      | 内面は口縁がヨナA 以下剥<br>落のため不明 外面は口縁ヨ<br>ナB 以下ヘケ→ヘミ    | ⑨⑩⑪赤褐色⑩褐<br>色 堅緻 剥落<br>or (1c2) r (2c3)<br>q (2b3) h (1-4) | 口縁僅かに欠<br>失<br>11—No.2<br>SGa-30 |
| 2  | 埴       | (12.0)<br>4.0       | 口縁は鈍く尖る 底面は僅か<br>に上げ底気味 | 口縁はヨナA 内面はナデ<br>外面はナデ→ヘケ 底部はヘ<br>ケ              | ⑨⑩⑪赤褐色<br>やや脆弱<br>q (3a3) or (1-4)<br>r (2c3) ub (1-4)     | 1/6<br>11—覆土<br>SGa-170 ㊟        |
| 3  | 小型<br>壺 | —<br>(4.9)<br>(2.7) | 底部は微かに上げ底               | 内面は指によるナデ下ろし<br>外面はヘケ 底面はヘケ                     | ⑨⑩⑪濃赤褐色<br>q (2b3) or (1b3)<br>h (1-2) m (1-3)<br>脆弱       | 1/2<br>11—覆土<br>SGa-172 ㊟        |
| 4  | 高坏      | —<br>14.3<br>(7.8)  | 接地面は平                   | 脚外ヘナ ナデ 裾外ヨナA<br>裾内面ヨナA 脚内面低く大<br>きなシメ 連続マケ (順) | ⑨⑩⑪赤褐色<br>やや剥落 混微<br>q (2b2) or (1b2)                      | 脚裾一部欠失<br>11—No.5<br>SGa-217     |

|    |    |                    |          |                                                                    |                                                         |                                |
|----|----|--------------------|----------|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 5  | 高坏 | —<br>—<br>(9.6)    |          | 脚外面はナデ 裾外面はヨナ A 裾内面はヨナ A ヨナ B 脚内面は連続的なマケ (順)                       | ⑨⑩⑪赤褐色<br>硬質 s (5b1)<br>q (2b3) or (1b3)                | 脚裾<br>11-No. 4<br>SGa-219      |
| 6  | 高坏 | —<br>—<br>(7.6)    |          | 脚外面へケ→ナデ 内面マケ (逆) 弱い大きな単位シメ →マケ (順) ナデ ヨナ A                        | ⑨⑩⑪濃赤褐色<br>q (1-4) or (1b4)<br>堅緻                       | 脚部1/2<br>11-No. 7<br>SGa-224 ㊟ |
| 7  | 高坏 | —<br>—<br>(6.8)    |          | 脚部ナデ ナデ→ヘナ 裾外面ヘナ 脚裾境横位ヘナ1条 裾内面ナデ 脚内面マケ (順) 弱く大きな単位のシメ 連続性の弱いマケ (順) | ⑨⑩⑪褐色<br>q (4b3) or (4b4)<br>s (4b4) 混多                 | 脚部1/2<br>11-No. 1<br>SGa-168 ㊟ |
| 8  | 甕  | —<br>4.1<br>(2.9)  | 底面はやや上げ底 | 内面はヘケ 外面はナデ 底面はナデ                                                  | ⑨⑩⑪褐色<br>q (3a4) or (2a4)<br>s (8b4) 混多                 | 底部1/2<br>11-覆土<br>SGa-169 ㊟    |
| 9  | 甕  | —<br>5.2<br>(2.3)  | 底面は平     | 内面はナデ→ヘナ 外面はヘケ 底面はヘケ                                               | ⑨⑩⑪淡褐色⑫灰色<br>q (3b4)<br>or (4b4) c (3c4)<br>un (1a2) 混多 | 底部1/4<br>11-No. 3<br>SGa-171 ㊟ |
| 10 | 壺  | 20.3<br>—<br>(9.2) | 口端は平面    | 口端はヨナ B 内面はヨナ A 外面はヨナ A ヨナ B ヨナ A                                  | ⑨⑩⑪褐色<br>q (2b3) or (2b2)<br>s (5b3) r (2b3)<br>堅緻      | 口縁1/5<br>11-No. 6<br>SGa-233 ㊟ |

表—16 第13号住居址出土遺物観察表 (第17図)

| 番号 | 器種              | 大きさ                | 成形手法の特徴           | 調整手法の特徴                                                 | 胎土・色調                                | 備考                           |
|----|-----------------|--------------------|-------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------|
| 1  | 高坏              | —<br>—<br>(5.7)    |                   | 脚部外面ヘミ 上部下部にそれぞれ強い横位ヘナ 内面連続的なマケ (順) 起伏の少ないシメ 連続的なマケ (順) | ⑨⑩⑪赤褐色<br>混微 堅緻                      | 脚部<br>13-覆土<br>SGa-220       |
| 2  | 高坏              | —<br>12.8<br>(9.3) | 脚端部は内面で接地         | 脚外面ナデ 裾外面ナデ ヨナ A ヨナ B 内面ヨナ A ヨナ B 脚内面小さな単位のシメ 荒いマケ (逆)  | ⑨⑩⑪淡褐色<br>q (3b3) c (3c3)<br>s (8c3) | 脚以下1/2<br>13-覆土<br>SGa-218 ㊟ |
| 3  | コップ<br>状土<br>製品 | 7.0<br>3.5<br>8.1  | 口唇はやや内屈 底部中央はやや凹む | 端部はヨナ A 内面はナデヘケ 外面はナデ 底面はヘケ→ナデ                          | ⑨⑩⑪赤褐色<br>堅緻 混微                      | 完形<br>13-覆土<br>SGa-31        |

表—17 第14号住居址出土遺物観察表 (第18図)

| 番号 | 器種 | 大きさ                  | 成形手法の特徴              | 調整手法の特徴                                 | 胎土・色調                                    | 備考                          |
|----|----|----------------------|----------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------|
| 1  | 埴  | 11.9<br>5.4          | 口縁は丸い 底面は上げ底         | 口縁内面ヨナ A 以下剥落不明 外面口縁ヨナ B 以下ナデヘケ 底面ヘケ→ナデ | ⑨⑩⑪赤褐色<br>やや脆弱<br>or (2b3) h (1b3)       | ほぼ完形<br>14-No. 6<br>SGa-28  |
| 2  | 壺  | <18.8><br>—<br>(6.8) | 口唇は丸い                | 内面は上位からヨナ A ナデ 外面は ヨナ B ヨナ A            | ⑨⑩⑪赤褐色<br>堅緻 q (2b2)<br>or (1b3) s (5b2) | 口縁1/2<br>14-床直<br>SGa-232 ㊟ |
| 3  | 高坏 | <19.9><br>—          | 口端は外側に向かう面 口縁に4単位の穿孔 | ヨナ A (風化が激しく詳細は不明)                      | ⑨⑩⑪褐色 脆弱<br>or (1b3)                     | 口縁1/2<br>14-覆土              |

|   |    |                      |                                         |                                                                                               |                                                                  |                                |           |
|---|----|----------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-----------|
|   |    | (4.6)                |                                         |                                                                                               |                                                                  | h (1-4) s (3b2)                | SGa-234 ㊟ |
| 4 | 高坏 | (23.5)<br>—<br>(2.7) | 口端は外側に面を持ち一条の沈線が入る                      | 内外面ともヨナA 2本1単位の暗文を持つ                                                                          | ㊟㊟㊟㊟褐色<br>脆弱 q (1-4)<br>or (1-4)                                 | 口縁1/8<br>14—覆土<br>SGa-260 ㊟    |           |
| 5 | 甕  | 17.6<br>—<br>(23.3)  | 口唇はやや内屈                                 | 内面は上位からヨナA ナデ斜位のヘナ 外面は上位からヨナA ナデ→斜位のヘナ                                                        | ㊟㊟㊟㊟茶褐色<br>q (2b3) or (3b3)<br>s (8c4) r (4c4)                   | 口縁胴部1/4<br>14—覆土<br>SGa-238 ㊟  |           |
| 6 | 高坏 | 17.8<br>13.4<br>15.9 | 口唇は丸く素直に外側に延びる 裾端部もやや丸く内面で接地 坏部中央は大きく凹む | 坏部内面ヨナA 下半不明<br>外面ヨナA ナデ ヨナB→指頭押え ナデ 脚部外面ナデ 裾部ナデ ヨナA ヨナB 内面 ナデ ヨナB 脚部内面やや大きなシメ 連続マケ (順) 裾に布圧痕 | ㊟㊟㊟㊟赤褐色<br>q (2b3) or (2b3)<br>s (7b3) r (5c3)<br>やや硬質 坏部内面剥落が顕著 | 口縁裾一部欠失<br>14—No.9<br>SGa-230  |           |
| 7 | 甕  | 15.1<br>6.7<br>18.7  | 口端はやや丸い 底部は平底                           | 内面口縁ヨナA 胴部ヘナ<br>底部ナデ 外面口縁ヨナA 胴部ナデ→ヘナ 底部ヘナ                                                     | ㊟㊟㊟㊟赤褐色<br>q (5a4) or (5b4)<br>s (7b3)                           | 口縁僅かに欠失<br>14—No.13<br>SGa-235 |           |
| 8 | 甕  | 19.4<br>—<br>28.2    | 口唇はやや尖る 内外面とも輪積み痕をよく残す                  | 内面は上位からヨナA ヘナ<br>外面は上位からヨナA ナデヘラによる押し ヘナ                                                      | ㊟㊟㊟㊟褐色～赤褐色<br>q (5b4)<br>or (5b4) s (7b4)<br>混多                  | 口縁の一部と底部欠失<br>14—床直<br>SGa-239 |           |

表-18 第15号住居址出土遺物観察表 (第19図)

| 番号 | 器種 | 大きさ               | 成形手法の特徴 | 調整手法の特徴                        | 胎土・色調                                                    | 備考                           |
|----|----|-------------------|---------|--------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1  | 高坏 | —<br>(2.1)        |         | 坏部内面ヘミ 外面ヘミ 接合部外面ヘミ→ヨナA 脚部内面ヘミ | ㊟㊟㊟㊟淡褐色<br>q (3b3) or (2b3)<br>r (4b4) 混多                | 接合部付近<br>15—覆土<br>SGa-174    |
| 2  | 甕  | —<br>5.2<br>(3.0) | 微かに上げ底  | 内面ヘミ 外面ヘミ 底面ヘナ→ナデ              | ㊟㊟㊟㊟淡褐色<br>q (3b3) or (2b2)<br>s (3b2) 混多                | 底部1/2<br>15—覆土<br>SGa-173    |
| 3  | 甕  | —<br>(13.5)       |         | 内面ヘナ→ナデ 外面ヘナ→ナデ                | ㊟㊟㊟㊟淡褐色<br>剥落 混多<br>q (1b3) or (1b3)<br>s (2b2) ub (1b4) | 胴部<br>15—No.1.2.3<br>SGa-244 |

表-19 第16号住居址出土遺物観察表 (第20図)

| 番号 | 器種 | 大きさ                 | 成形手法の特徴                          | 調整手法の特徴                                  | 胎土・色調                                          | 備考                             |
|----|----|---------------------|----------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------------|--------------------------------|
| 1  | 埴  | 11.5<br>6.1         | 口端はやや尖り微かに内屈 底面は平底気味             | 口縁はヨナA 内面は上位からヨナA ヘナ→ナデ 外面はヘナ 底面はナデ      | ㊟㊟㊟㊟褐色 硬質<br>q (5a4)<br>or (3a4) s (8b4)<br>混多 | 口縁を僅かに欠失<br>16—No.8<br>SGa-29  |
| 2  | 支脚 | —<br>(9.7)<br>(5.5) | 底部はやや上げ底ぎみ                       | 内面は指の圧痕を大きく残す ナデ 外面と底部はナデ                | ㊟㊟㊟㊟褐色 混多<br>q (5b5)<br>or (4b5) s (8b5)       | 底部1/2<br>16—No.15<br>SGa-130 ㊟ |
| 3  | 甕  | 8.6<br>3.8<br>9.3   | 口唇は外側に尖って肥厚 底面は上げ底 胴最大径内面に接合痕を残す | 口縁ヨナA 内面ナデ 外面口縁及び体部上半縦ヘミ 下半横ヘミ 最大径直下横位ヘミ | ㊟㊟㊟㊟濃赤褐色<br>s (3b3) 混微                         | 口縁を僅かに欠失<br>16—No.16           |

|   |    |                               |                                         |                                                                                            |                                                                  |                                          |
|---|----|-------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 4 | 高環 | (4.6)<br>(23.5)<br>—<br>(2.7) | 口端は外側に面を持ち一条の沈線が入る                      | 内外面ともヨナA 2本1単位の暗文を持つ                                                                       | h (1-4) s (3b2)<br>⑨⑫⑭⑮褐色<br>脆弱 q (1-4)<br>or (1-4)              | SGa-234 ㊦<br>口縁1/8<br>14→覆土<br>SGa-260 ㊦ |
| 5 | 甕  | 17.6<br>—<br>(23.3)           | 口唇はやや内屈                                 | 内面は上位からヨナA ナデ斜位のヘナ 外面は上位からヨナA ナデ→斜位のヘケ                                                     | ⑨⑫⑭茶褐色<br>q (2b3) or (3b3)<br>s (8c4) r (4c4)                    | 口縁肩部1/4<br>14→覆土<br>SGa-238 ㊦            |
| 6 | 高環 | 17.8<br>13.4<br>15.9          | 口唇は丸く素直に外側に延びる 裾端部もやや丸く内面で接地 環部中央は大きく凹む | 環部内面ヨナA 下半不明 外面ヨナA ナデ ヨナB→指頭押え ナデ 脚部外面ナデ 裾部ナデ ヨナA ヨナB 内面 ナデ ヨナB 脚部内面やや大きなシメ 連続マケ (順) 裾に布圧痕 | ⑨⑫⑭赤褐色<br>q (2b3) or (2b3)<br>s (7b3) or (5c3)<br>やや硬質 環部内面剥落が顕著 | 口縁裾一部欠失<br>14→No.9<br>SGa-230            |
| 7 | 甕  | 15.1<br>6.7<br>18.7           | 口端はやや丸い 底部は平底                           | 内面口縁ヨナA 胴部ヘナ 底部ナデ 外面口縁ヨナA 胴部ナデ→ヘケ 底部ヘケ                                                     | ⑨⑫⑭赤褐色<br>q (5a4) or (5b4)<br>s (7b3)                            | 口縁僅かに欠失<br>14→No.13<br>SGa-235           |
| 8 | 甕  | 19.4<br>—<br>28.2             | 口唇はやや尖る 内外面とも輪積み痕をよく残す                  | 内面は上位からヨナA ヘナ 外面は上位からヨナA ナデヘラによる押し ヘケ                                                      | ⑨⑫⑭褐色～赤褐色 q (5b4)<br>or (5b4) s (7b4)<br>混多                      | 口縁の一部と底部欠失<br>14→床直<br>SGa-239           |

表-18 第15号住居址出土遺物観察表 (第19図)

| 番号 | 器種 | 大きさ               | 成形手法の特徴 | 調整手法の特徴                        | 胎土・色調                                                   | 備考                             |
|----|----|-------------------|---------|--------------------------------|---------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 1  | 高環 | —<br>—<br>(2.1)   |         | 環部内面ヘミ 外面ヘミ 接合部外面ヘミ→ヨナA 脚部内面ヘミ | ⑨⑫⑭淡褐色<br>q (3b3) or (2b3)<br>r (4b4) 混多                | 接合部付近<br>15→覆土<br>SGa-174      |
| 2  | 甕  | —<br>5.2<br>(3.0) | 微かに上げ底  | 内面ヘミ 外面ヘミ 底面ヘケ→ナデ              | ⑨⑫⑭淡褐色<br>q (3b3) or (2b2)<br>s (3b2) 混多                | 底部1/2<br>15→覆土<br>SGa-173      |
| 3  | 甕  | —<br>—<br>(13.5)  |         | 内面ヘケ→ナデ 外面ヘケ→ナデ                | ⑨⑫⑭淡褐色<br>剥落 混多<br>q (1b3) or (1b3)<br>s (2b2) ub (1b4) | 胴部<br>15→No.1, 2, 3<br>SGa-244 |

表-19 第16号住居址出土遺物観察表 (第20図)

| 番号 | 器種 | 大きさ                 | 成形手法の特徴                          | 調整手法の特徴                                 | 胎土・色調                                      | 備考                             |
|----|----|---------------------|----------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------|
| 1  | 埴  | 11.5<br>6.1         | 口端はやや尖り微かに内屈 底面は平底気味             | 口縁はヨナA 内面は上位からヨナA ヘケ→ナデ 外面はヘケ 底面はナデ     | ⑨⑫⑭褐色 硬質 q (5a4)<br>or (3a4) s (8b4)<br>混多 | 口縁を僅かに欠失<br>16→No.8<br>SGa-29  |
| 2  | 支脚 | —<br>(9.7)<br>(5.5) | 底部はやや上げ底ぎみ                       | 内面は指の圧痕を大きく残す ナデ 外面と底部はナデ               | ⑨⑫⑭褐色 混多 q (5b5)<br>or (4b5) s (8b5)       | 底部1/2<br>16→No.15<br>SGa-130 ㊦ |
| 3  | 甕  | 8.6<br>3.8<br>9.3   | 口唇は外側に尖って肥厚 底面は上げ底 胴最大径内面に接合痕を残す | 口縁ヨナA 内面ナデ 外面口縁及び体部上半縦ヘミ 下半横ヘミ 最大径直下横位ヘ | ⑨⑫⑭濃赤褐色 s (3b3) 混微                         | 口縁を僅かに欠失<br>16→No.16           |

|   |     |                       |                     |                                                                                   |                                               |                              |
|---|-----|-----------------------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|------------------------------|
| 3 | 高坏  | —<br>(14.7)<br>(4.2)  | 裾端部は丸い              | 内面は上位からヨナA ヨナB<br>外面は上位からナデ ヨナA ヨナB 端部はヨナA                                        | ⑨⑨⑨赤褐色<br>混微 堅緻<br>m (1-3)                    | 裾部1/6<br>18—覆土<br>SGa-182 ㊟  |
| 4 | 高坏  | —<br>(18.1)<br>(12.3) | 端部は鈍く丸い             | 裾内面ナデ ヨナA ヨナB<br>ヨナA ヨナB ヨナA 脚<br>内面マケ (逆) 大単位シメ<br>マケ (逆) 外面ヘケ→ナデ<br>ヨナA ヨナB ヨナA | ⑨⑨⑨赤褐色<br>q (3a3) s (6a3)<br>やや硬質             | 脚・裾<br>18—No.2<br>SGa-214    |
| 5 | 高坏  | —<br>(12.4)<br>(3.4)  | 端部はやや丸く僅かに内側に肥厚する   | 内面は上位からナデ ヨナB<br>外面は上位からナデ ヨナB                                                    | ⑨⑨⑨赤褐色<br>q (3a3) s (6a3)                     | 裾部1/8<br>18—覆土<br>SGa-184 ㊟  |
| 6 | 手握ね | —<br>(3.6)<br>(2.9)   | 上げ底                 | 内面ヘナ 外面胴部ナデ 底部ナデ 底部内面ヘラによるナデ下ろしの跡が明瞭 (逆)                                          | ⑨⑨⑨赤褐色<br>q (2c3) or (2c3)<br>h (2-3) 混多      | 底部1/2<br>18—覆土<br>SGa-181 ㊟  |
| 7 | 甕   | (21.9)<br>—<br>(6.7)  | 端部はやや尖る 直線的に上外側に延びる | 口唇はヨナA 内面は上位からヨナA ナデ 外面は上位からヨナB ナデ ヘケ                                             | ⑨⑨⑨赤褐色<br>q (3a3) or (2a2)<br>s (5b3) h (3-3) | 口縁部1/6<br>18—覆土<br>SGa-262 ㊟ |

表-21 第19a号住居址出土遺物観察表 (第22図)

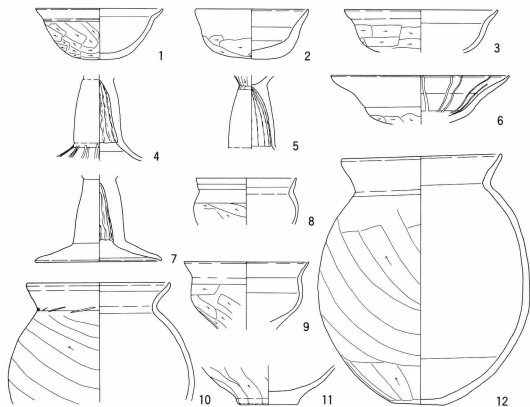
| 番号 | 器種 | 大きさ                   | 成形手法の特徴                | 調整手法の特徴                                           | 胎土・色調                                                  | 備考                           |
|----|----|-----------------------|------------------------|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------|
| 1  | 高坏 | 17.3<br>—<br>(6.3)    | 坏部口唇は内側に肥厚 坏部底面は平      | 端部ヨナA 内面ヨナA ナデ 外面ヨナA ヨナB 横位ヘケ→縦位ヘケ→ナデ 剥落が顕著       | ⑨⑨⑨赤褐色<br>脆弱 q (2b2)<br>or (2b2) h (2-2)<br>s (4b2) 混微 | 坏部<br>19a—No.2<br>SGa-212    |
| 2  | 高坏 | —<br>(13.7)<br>(3.5)  | 裾端部は内屈                 | 端部ヨナA 内面外面ヨナB (ヨナA後ヨナBで器形の凹部に工具があたらずヨナAの跡が部分的に残る) | ⑨⑨⑨赤褐色やや硬質 混微<br>or (1-2) h (1-1)                      | 裾部1/8<br>19a—覆土<br>SGa-185 ㊟ |
| 3  | 高坏 | —<br>(13.1)<br>(10.6) | 裾端部は面を持つ 脚と裾の接続部にヘラの痕跡 | 坏部内面ナデ 外面脚→裾ナデ ヨナA 裾内面ヨナA 脚内面上位大きなシメ 下位連続マケ (順)   | ⑨⑨⑨赤褐色<br>やや硬質<br>q (2a2) or (2b2)<br>s (5b3) m (1-3)  | 脚・裾<br>19a—No.1<br>SGa-211   |

表-22 土壌出土遺物観察表 (第23図)

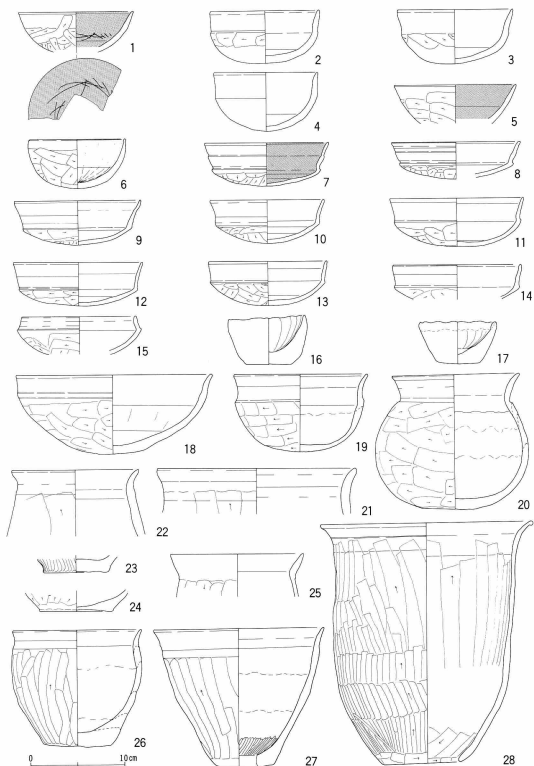
| 番号 | 器種 | 大きさ                   | 成形手法の特徴                                 | 調整手法の特徴                                 | 胎土・色調                                         | 備考                             |
|----|----|-----------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------------------|
| 1  | 甕  | (17.7)<br>—<br>(15.0) | 口唇はやや肥厚し外反                              | 口縁はヨナA 内面体部はヘナ 外面体部はナデ→ヘケ               | ⑨⑨⑨赤褐色 堅緻 q (4b3)<br>or (4b2) h (2-3)         | 口縁1/4<br>SK3—覆土<br>SGa-249 ㊟   |
| 2  | 甕  | —<br>4.8<br>(8.3)     |                                         | 内面は剥落が激しく調整不明 外面はヘケ 底面はヘケ→ナデか           | ⑨⑨⑨赤褐色<br>q (3b5) or (2b3)<br>h (2-1) s (6b4) | 底部<br>SK3—覆土<br>SGa-252 ㊟      |
| 3  | 高坏 | 17.3<br>—<br>(6.8)    | 口端は僅かに内屈 坏部中央が凹む 脚との接合は坏が円筒状で坏側から粘土塊の押込 | 内面は上位からヨナA ナデ 外面は上位からヨナA 横位ヘケ 斜位ヘケ 内面剥落 | ⑨⑨⑨赤褐色<br>堅緻 混微<br>q (2b1) h (2-3)            | 坏部<br>SK10—覆土<br>SGa-250       |
| 4  | 壺  | (22.2)<br>—<br>(6.3)  | 口端は内側に屈曲                                | 口端はヨナB 内面は上位からヨナA ナデ 外面は上位からヨナA ヨナB ヨナA | ⑨⑨⑨赤褐色 堅緻 q (2b2)<br>or (2b2) s (8b1)         | 口縁部1/6<br>SK10—覆土<br>SGa-251 ㊟ |

|   |    |                      |                |                                       |                                                             |                                |
|---|----|----------------------|----------------|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------|--------------------------------|
|   |    |                      |                | ヨナB ナデ                                |                                                             |                                |
| 5 | 甕  | —<br>5.1<br>(3.0)    |                | 内面はヘナ 外面はヘケ 底面はヘケ                     | ㊟黒色処理㊟褐色～黒色㊟褐色 堅緻 混多<br>q (5a2) or (3b3)<br>h (1-1) s (5b2) | 底部<br>SK25—No. 2<br>SGa-137 ㊟  |
| 6 | 高坏 | —<br>—<br>(6.7)      | 裾接合部が脚内にまで込まれる | 内面は細かいシメの上をマケ裾に布の圧痕を残す 外面は脚部ナデ 裾はヨナA  | ㊟㊟褐色㊟淡褐色 堅緻 混微<br>q (2-2) or (1-3)<br>h (1-4)               | 脚部1/3<br>SK25—覆土<br>SGa-138 ㊟  |
| 7 | 坏  | 〈12.9〉<br>(2.8)      | 口唇はやや尖る        | 口唇ヨナA 内面はヨナB 外面は口縁上半ヨナA 下半ヨナB 底部ナデ→ヘケ | ㊟㊟㊟褐色 やや堅緻 混微<br>r (2b3)                                    | 口縁1/5<br>SK27—覆土<br>SGa-136 ㊟  |
| 8 | 甕  | —<br>〈7.6〉<br>(2.6)  |                | 内面はヘナ 外面はヘケ 底面はヘケ                     | ㊟㊟㊟赤褐色 堅緻 q (4a5) or (3b3) s (4b3)                          | 底部1/5<br>SK27—覆土<br>SGa-135 ㊟  |
| 9 | 甕  | 〈18.4〉<br>—<br>(2.8) | 口唇は外そぎで端部は丸い   | 口縁はヨナA 体部内面はナデ                        | ㊟㊟㊟褐色 やや堅緻 q (2a4) or (3b2) s (5b5)                         | 口縁部1/8<br>SK27—覆土<br>SGa-186 ㊟ |

### 3. 出土遺物実測図



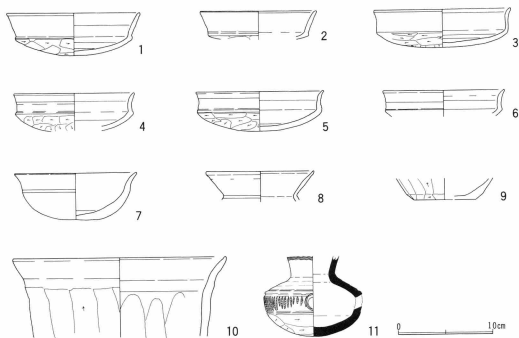
第1図 第1号住居址出土遺物 (表-1)



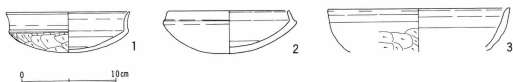
第2图 第2a号住居址出土遺物 (表-2)



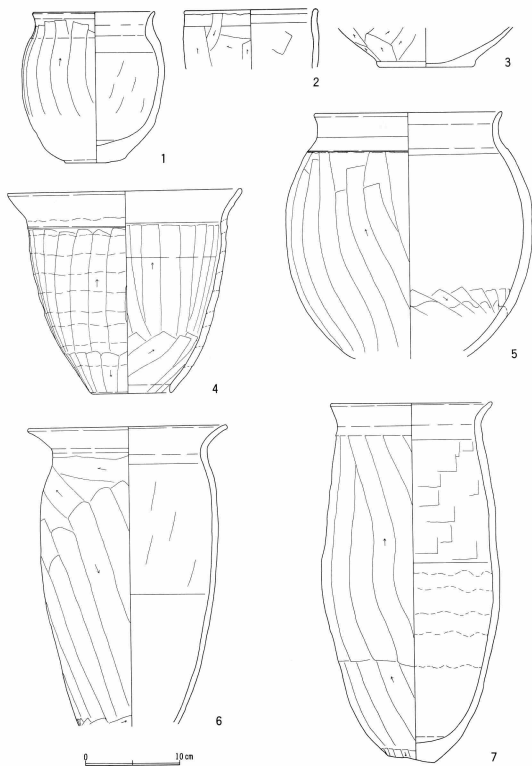
第3図 第2b号住居址出土遺物 (表-3)



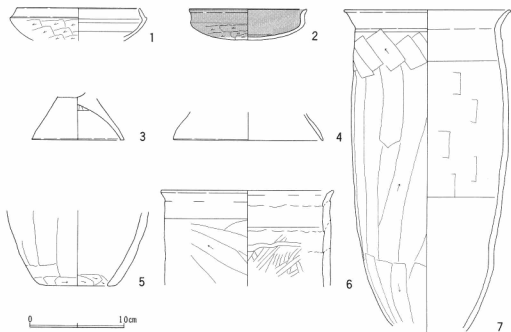
第4図 第3a号住居址出土遺物 (表-4)



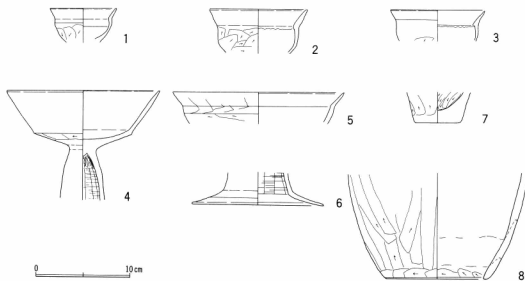
第5図 第3b号住居址出土遺物 (1) (表-5)



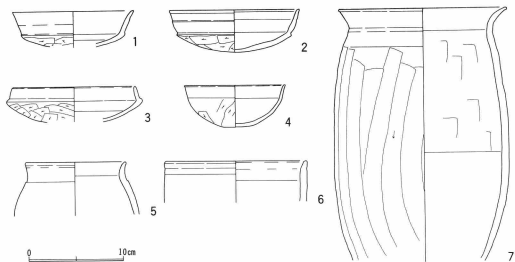
第6图 第3b号住居址出土遺物(2) (表-5)



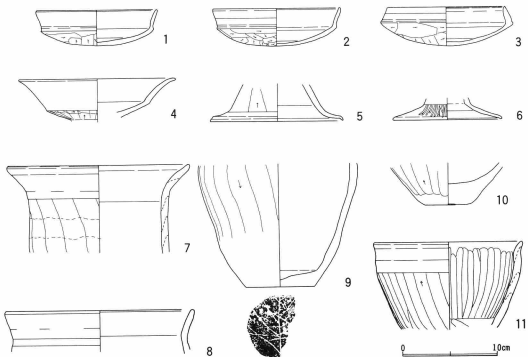
第7図 第4 a号住居址出土遺物 (表-6)



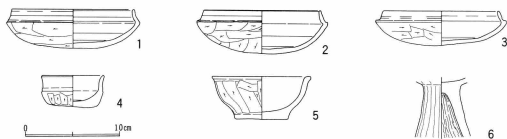
第8図 第4 b号住居址出土遺物 (表-7)



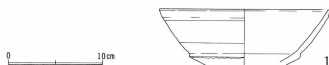
第9図 第5a号住居址出土遺物 (表-8)



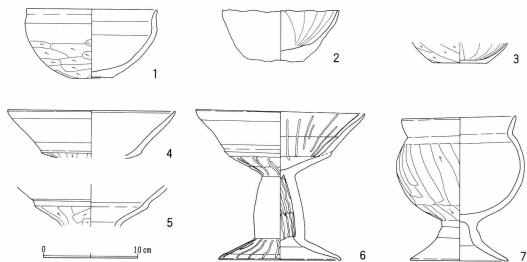
第10図 第6a号住居址出土遺物 (表-9)



第11图 第6b号住居址出土遺物 (表-10)



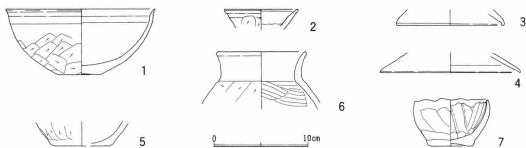
第12图 第7号住居址出土遺物 (表-11)



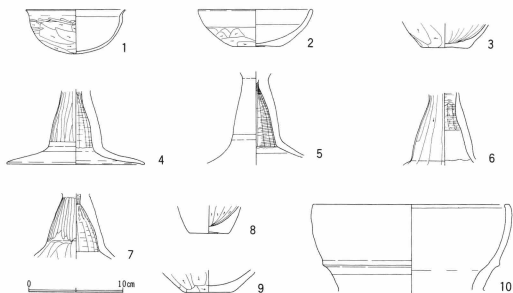
第13图 第8号住居址出土遺物 (表-12)



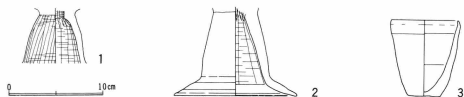
第14图 第9号住居址出土遺物 (表-13)



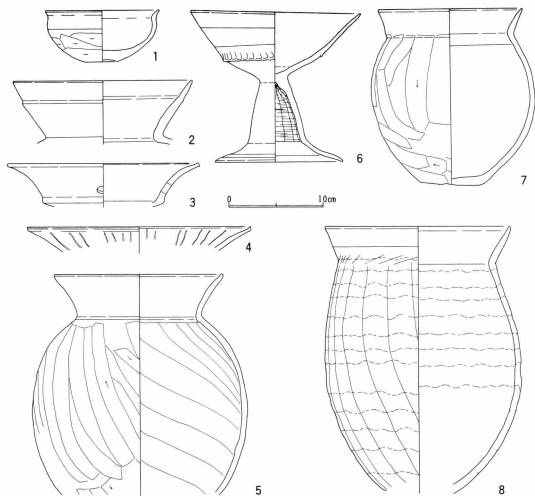
第15图 第10号住居址出土遗物 (表-14)



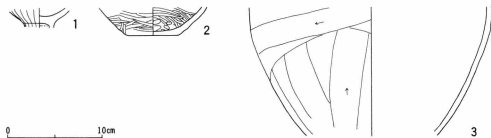
第16图 第11号住居址出土遗物 (表-15)



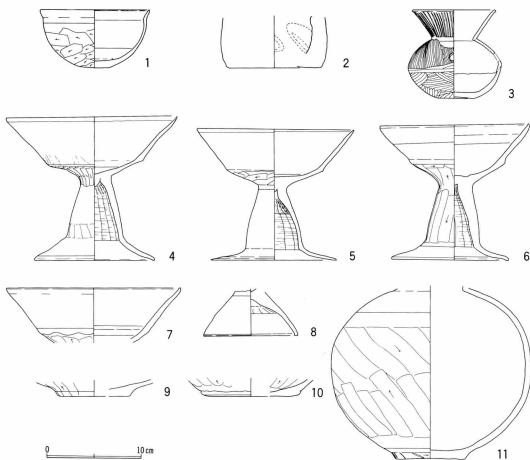
第17图 第13号住居址出土遗物 (表-16)



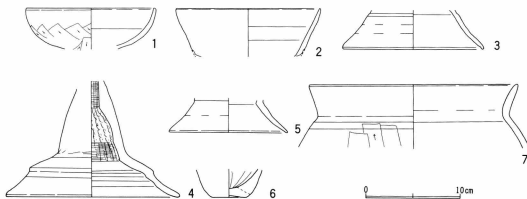
第18图 第14号住居址出土遺物 (表-17)



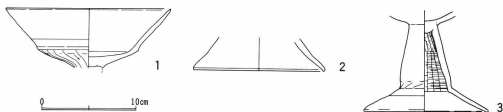
第19图 第15号住居址出土遺物 (表-18)



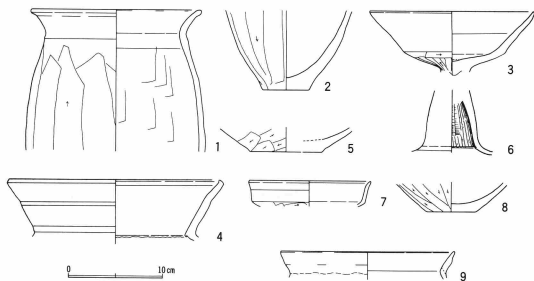
第20图 第16号住居址出土遺物 (表-19)



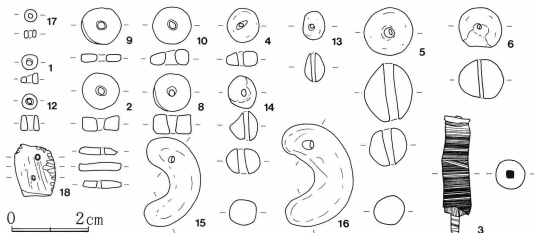
第21图 第18号住居址出土遺物 (表-20)



第22图 第19a号住居址出土遗物 (表-21)



第23圖 土壤出土遺物 (表-22)



第24図 その他の遺物

## 第Ⅱ章 出土状態からみた一括遺物の同時性

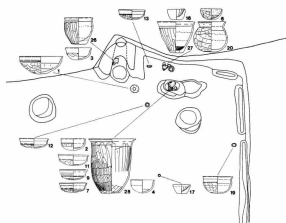
カマド出現前、カマド出現後の住居址からの遺物出土状態について、近年、桐生直彦氏により各ケースの想定が行なわれ、様々な具体的な事例の適用がなされ研究史の整理が進められている(桐生 1983, 84, 87 a, b)。ところで、児玉周辺は土師器の編年研究については先進的な地域の一つであって、多くの論考があり(中村 1979 利根川 1981, 82 鈴木 1983, 84)、系統の分離、製作手法・調整方法の変遷、機能・用途論といった型式論及び、その周辺の研究が整備され詳細な編年が発表されている。本章では、従来、所謂一括として扱われてきたような出土状態を呈する遺物について、まず出土状態から見たあり方で類別し、その後に手法等を観察することによって先の類別を捉え返し、若干の検討を行なってみたい。

### 1. 住居址からの遺物出土状態

**第2 a 号住居址：** 本住居址は鬼高Ⅱ式期のもので、遺存状態は良好で遺物も豊富であった。各遺物の出土状態は以下の通りである(第25図)。カマド内から甕(26)と坏(3)がかなり使用面から浮いて出土しており、甕は受熱が著しい。カマド前には鉢(1)が逆位で出土している。受熱劣化が激しく繰り返し高温を受けたようである。カマド右側面には坏(13)がやや浮いている。さらに横からは手捏ね(16)埴(6)甗(27)壺(20)が出土している。貯穴中からは甗(28)坏(4)及び、入れ子状態で坏(2, 11, 9, 7 注1)が出土している。このうち最下から

出土した坏(7)は半欠である。なお、長甕は調査区からは出土していない。ここでは仮に、以下のように群別しておきたい。

a 群：床面直上から出土したもの(1)  
b 群：カマド内で使用面から浮いて出土したもの(3, 26) c 群：貯蔵穴内から出土したもの(2, 4, 7, 9, 11, 28) d 群：床面よりある程度浮いた、覆土中から出土したもの(12, 13, 17, 19)  
e 群：壁際に付着するようにしてまとまって、やや床面から浮いて出土したもの(6, 16, 20, 27)



第25図 第2 a 号住居址遺物出土状態

**第16号住居址：** 本住居址は和泉期のもので、調査にかかったのは全床面積のおよそ1/2であるが、遺存状態も良好で遺物も比較的豊富であった。なおコーナー部に粘土塊をもつが、調査時の所見によって、炭化物・焼土を全くともなわないことからカマドの可能性を否定されている。各遺物の出土状態は以下の通りである（第26図）。コーナー部粘土塊上に高坏（4）が、貯穴の中から高坏（6）が又、住居中央の床面直上で甕（3）が、それぞれ完形で出土している。貯蔵穴の上からは高坏（5、8）、甕（11）、埴（1）、手捏ね（2）がいずれも大きく破損して接合関係を持ち出土している。ここでも、その出土状態の違いから（3、4、6）と（1、2、5、8、11）を区別して、前者をf群、後者をg群として捉えておきたい（両住居址とも覆土中から他にいくつかの遺物が出土しているが前述のどの遺物とも接合関係をもたない）。

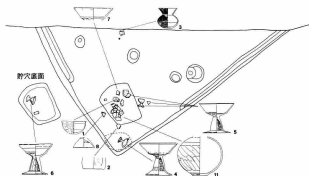
#### 桐生氏の分類

では、これらa～g群は前述した桐生氏の分類に従えばどのケースに該当するであろうか。まず、第2a号住居址では、放置遺棄の可能性を持つものはa、c群 転落遺棄の可能性を持つものはa、b、c、d、e群 安置遺棄の可能性を持つものはa、e群 廃棄の可能性を持つものはd群であるが、具体的に各群がどのケースに該当するかは判別できない。第16号住居址については、f群は床直またはそれに類する状況の完形品であることから遺棄としてとらえられ、g群は第一次埋没土層上の大きな、且つ接合後も完形にならない破片なのでd群やe群とは異なり遺棄とは考えられず、廃棄に該当すると思われる。なお同様に各ケースの同定は困難である。

この様に具体的な遺物の出土状態は、桐生氏の分類・想定した各ケースに適合させるのが難しい。桐生氏による出土状態の分類は、人間あるいは自然の営為の想定が比較的鮮明で、具体的であるので理解を容易にしている。しかし、出土状態を表すのに現象の詳細な分析ではなく、予めその原因の人間行動等を

想定した実体的な概念による分類が用いられているので、実際の事例について分析を進めて行くと氏の範疇では分類が多少困難である。時代を越えて同様な現象を呈することを根拠としてある実体にあてはめて解釈するのではなく、むしろ逆に差異を導き出してそこから現象の歴史性、地域性を考えて行きたい。

ここでは、“遺物位置の規定要因”についての具体的な想定を行わず、暫定的に時間差として捉えられる可能



第26図 第16号住居址遺物出土状態

性を持つものをあげておきたい。第2 a 号住居址についてはd 群が覆土にあることから、a、b、c、e 群→d 群といった時間差を持つ可能性が、第16号住居址ではf 群は床直あるいは貯蔵穴内に位置し、g 群が一次埋没土層の上に存在することからf 群→g 群といった時間差を持つ可能性があることが考えられる。

## 2. 出土遺物の型式論的検討

次に、出土位置の違いから時間差を持つ可能性を指摘した遺物群の内、第16号住居址のf 群とg 群について、型式論的に若干検討してみよう。

### 高坏調整成形

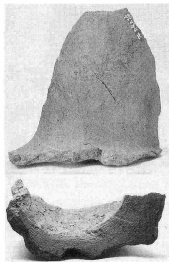
具体的には、調整・成形手法についてあるひとつの系統に連なる土師器高坏を検討してみたい。この高坏の脚内調整には、A、絞り目の上にヘラケズリがされていないもの B、絞り目の上からヘラケズリがされているものの2者がある。他の部位について見ると、坏部端部と口縁部底部境界がヨコナデBで調整されており、坏部底部外面に、主としてナデ、縦位のヘラケズリがなされている（第7・8・9号住居址 注2）、若しくは僅かに横位のヘラケズリがなされているものと、全体にヨコナデAによる調整が目立ち又坏部外周に横位のヘラケズリが認められる（第4 b・11・16号住居址）ものがある。又、形態上からは脚部が長く比較的絞り込みが弱いものと脚部が短く比較的絞り込みが強いものが、また坏部底面が湾曲しているものと平底に近いものが見受けられる。これらの手法・形態上の特徴はそれぞれ前者がAに、後者がBに概ね対応しており、前者から後者へという時間的な傾向を認めてよいであろう。なお、Aについては坏部底部の上に口縁を積んで行き、一般的に図13-6のような積み上げの形態を取る。その結果ヨコナデBによって接合部の調整が坏部側面下方の口縁と底部の境目になされる。また口縁を支えるために底部は厚く作られ後縦方向のヘラケズリによって調整される。底面は脚の上に積み上げて作って行くので、湾曲している。Bについては、坏部も平底化したものがみられ、注目されるのは坏部口縁部と底部の接合形態が異なり、底部円盤に外接するように口縁が接合されるものが多く、その結果坏部側面下方にヨコナデBによる調整がされておらず、接合部の調整・成形として底部外周の横方向のヘラケズリが多く見いだされる。

### 16号住居址の高坏

以上のような変遷観で第16号住居址出土高坏をみて行くと、4、5、6ともに脚内にヘラケズリをもつBに位置づけられ、更に坏部底面が湾曲する4・6と坏部底面がやや平で脚部の絞り込みも前者に比してやや強い5に、手法・形態的に分けて考えることが可能であろう。ただこの差異が4・6→5といった新旧関係として、明瞭な時間差として捉えられるかどうかはわからない。

### 高坏の布圧痕

なおここで興味深い事実として分類したBに位置付けられ、形態的にもやや新



第27図 高坏裾の布圧痕

しい様相を呈している第25号土城出土の高坏裾部に、布の圧痕が観察されることである(第27図)。この圧痕は裾部調整(最終的にはナデ→ヨコナデ)後についたもので、脚内ヘラケズリに先行している。ヘラケズリの工程の前には幾分かの乾燥期間があるので、脚・裾に坏部を支えかつ形を維持する強度を持たないものは、坏・脚接合後に「脚内に受けの木製品等をかませて形崩れをふせぐ手法」を用い、その時に付着防止の為、土器と受けの間に布をかませ、その圧痕がついたものであろう。これについては、後日再論したい。

### 3. 住居址出土遺物の時間差

第16号住居址でみられた住居址からの、床面上の完形品と覆土中からの大きな破片の大量出土は、時間差を持つ可能性が考えられたが、和泉期の住居址で遺物が大量に出土する例は、真鏡寺後遺跡周辺では、第13号住居址及び第20号住居址(B地点 未報告)ほか、本庄市社具路遺跡第9号住居址、同古川端遺跡第8号住居址等に散見される。

第16号住居址でみられた遺物の出土状態について、さきに検討したようにf群とg群の遺物がもしも時間差を持つものならば、(1.住居構築→2.居住→3.住居廃絶→4.周提崩壊流入による第一次埋没土層の形成→5.周辺表土黒色土の流入)の流れの中の3での完形品の遺棄と、5での土器片の大量廃棄(多くの完形にはならないが相互に接合する破片と稀な完形)として捉えることが可能である。さきのf群とg群の高坏に時間差を認める、このような解釈が成り立つならば、同様な出土状態を呈すると考えられる遺物は、3で遺棄されたその住居址居住者の生活に関わる遺物と、5で廃棄された、その住居址居住者の生活に関わらない遺物に別けることが可能であり、特徴的な多くの破片は実は5での出土住居での居住生活と直接関わらない遺物である可能性を持つてくる。

#### 他住居からの遺棄

#### まとめ

ここでは、今回の分析例から可能性として次のことを想定してみたい。

- ①：第16号住居址の出土遺物は、床面上・貯穴内等に遺存するものと、第一次埋没土層上に存在するものに分離される。(従来の範疇では一括として扱うことの出来るものである)
- ②：前者は完形品であることを、後者は比較的大形で内部で接合関係をもつ破片であることをそれぞれ特徴とする。(床面直上のいくらかの破片と、覆土中の他のいくらかの破片については取捨して考える)
- ③：2者の遺物に成形・形態上の差異が認められる。

これについては、

- ④a：“型式論的に弁別可能な変化”の早さが、使用期間に比べて短く、

その結果手法や形態上から差異化可能な遺物が実は共時的に使用されている。

④b：両者の遺物の間に使用期間の前後関係が想定される。

といった両者が考えられ、

⑤a：いずれの遺物も使用期間からみれば同時であり、一括に扱い得る。

⑤b：前者は出土住居の居住者の生活に関わる遺棄として、後者は関わらない他住居からの廃棄された遺物であり、弁別され得る。

という結論がそれぞれ導かれる。

ここでは、出土状態からみた遺物群について検討を行なったが、その時間差については明確にする事が出来なかった。所謂一括遺物の同時性は現在の編年体系の根幹であり、遺物の出土住居址への帰属も前提となっている。一つの検討例として一括出土遺物の時間差、住居址出土遺物の他住居址への帰属の可能性を指摘しておきたい。（大屋道則）

**注1** 異形の坏(2・3・4)は、胎土に砂を多く含み手捏ねふうである。  
2は軟質木口状工具による調整がなされている。注目されよう。

**注2** ヨコナデAは指によるものと考えられ、ヨコナデBは 1 布によるもの 2 軟質の木口状工具によるものの2者があり明確に識別されていない。鈴木徳雄氏によれば、典型的なものは前者では1カ所のナデ上げが後者では工具の止め痕が認められることにより識別され、和泉期の高坏に認められるものは前者である、とされている。

#### 引用・参考文献

- 中村 倉司 1979 『宇佐久保遺跡』「埼玉県遺跡調査会報告書 第38集」
- 利根川章彦 1981 『倉林後遺跡』「埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第3集」埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 利根川章彦 1982 「古墳時代集落構成の一考察」土曜考古5
- 鈴木 徳雄 1983 「古代北武蔵における土師器製作手法の画期」土曜考古7
- 桐生 直彦 1983 「遺物の出土状態」『東寺方遺跡』
- 桐生 直彦 1984 「カマドを有する住居址を中心とした遺物の出土状態について(素描)」神奈川考古19
- 鈴木 徳雄 1984 「いわゆる北武蔵系土師器坏の動態」土曜考古9
- 桐生 直彦 1987a 「遺物出土状態の分析に関する覚書—カマド出現前の住居址を中心として—」貝塚38
- 1987b 「竪穴住居址を中心とした遺物出土状態の分類について—研究史と整理—」東国史論2

## 付篇 坏塗彩赤色顔料の分析

### はじめに

真鏡寺後遺跡A地点4 a 号住居址出土の坏に塗彩されている赤色顔料について、分析を行った(第7図-2 参照)。

### 1. 分析の操作

赤色顔料を構成する成分元素の検出を目的として、EPMA法を行った。

試料は、対象とする土器から小破片(3 mm×3 mm)を、採取して用いた。

#### EPMA法

測定には、東海大学工学部金属材料工学科に設置されている、電子線プローブ・マイクロアナライザー(島津ASM-SX型)を用いた。

測定条件は以下の通りである。

#### 測定の条件

|      |                |        |                      |
|------|----------------|--------|----------------------|
| 励起光源 | : 電子線          | フルスケール | : 5 K                |
| 印加電圧 | : 20 K V       | 定数     | : 0.5                |
| 印加電流 | : 20 mA        | 走査速度   | : 0.1 Å/min          |
| 検出器  | : Kr Exatron   | 記録紙速度  | : 2 cm/min           |
| 分光結晶 | : A D P (第25図) | 測定波長範囲 | : 2.26~10.0 Å (第25図) |
|      | L i F (第26図)   |        | 0.86~3.79 Å (第26図)   |

### 2. 分析の結果

①胎土部分からは特性X線波長として、Si(7.12 Å)、及びAl(8.33 Å)が検出された。

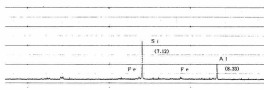
#### 顔料の構成元素

②顔料部分からは同様にFe(K $\beta$  1.75 Å K $\alpha$  1.94 Å)が検出された。

③Hg及びPbについては全く検出されなかった。

第28図

胎土部分の分析結果



第29図

赤色塗彩部分の分析結果



以上の分析結果より、真鏡寺後遺跡A地点4 a 号住居址出土の坏に塗彩されている赤色顔料は鉄を主成分とするものである事がわかり、過去の分析例や色調等により顔料の種類は、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$ と考えられる。

### 3. 赤色塗彩の坏について

4 a 号住居址出土の坏は本地域では連続的な系統をたどることが出来ない。胎土も他に類例がなく特徴的でありやや灰褐色を呈している。また出土も極めて稀である(注1)。これは従来広義の鬼高式の範疇で捉えられているもので(岡田・服部 1968)、所謂比企型の坏(中村 1979)と呼ばれているものである。児玉町で現在までに器形がわかる明確な比企型の坏が出土しているのは今回報告する真鏡寺後遺跡A地点4 a 号住居址1例のみである。

本遺物は口径12.3cm、器高3.3cmとやや小振りであり最大径は口端にある。又口縁部には輪積みの痕跡を残す。赤色顔料塗彩のタイミングは、ヘラケズリの後である。口縁はほぼ直立し口唇は強く屈曲する。なお口唇内面には沈線がみられる。比企型坏の変遷や系統等に関しては未だ詳細は明かとはなっていないが、本資料はやや小振りなこと、最大径が口端にあることなどから比較的新しいものであると考えられる。又同様な形態の坏の赤彩のタイミングは一般的には口縁部のヨコナデ→赤彩→ヘラケズリであり、その結果外面の赤彩範囲はヘラケズリが行なわれない口縁部に限られる。しかしながら本例では口縁部のヨコナデ→底部のヘラケズリ→赤彩となっており、結果的に口縁部に限らず、ヘラケズリを行なっている底部の上半まで赤彩が及んでいることは注目されよう。ただ口縁部の赤彩はよく磨き込まれたように非常に遺存状態がよいが底部の赤彩は明らかに口縁とは区別されたような粗雑な様相を呈している。塗彩材料は、やや粘性を帯びた泥状の顔料で、塗布後ナデ付けを行っているようである。

現在比企型坏の赤色顔料は一般に酸化鉄(Ⅲ)であるとされているが、具体的な分析例が乏しい。比企型坏を含む古墳時代の赤色顔料については、今後も分析を行なうと共に歴史的な位置付けをも検討してゆきたい。

なお赤色顔料の分析について、宮内庁正倉院事務所の成瀬正和氏から多くの貴重な助言をいただいた。

(齊藤 章\* 宮本泰男\*\* 大屋道則)

注1 中村倉司氏に見て頂いたところ本資料は、比企型坏が主体的に分布する地域からもたらされたものであろうとのことである。

\*東海大学理学部化学科助教授

\*\*東海大学工学部金属材料工学科技術員



1-1



1-3



1-2



1-6



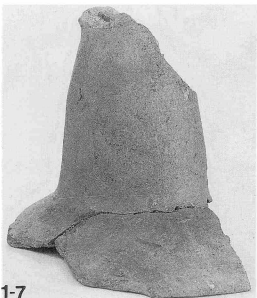
1-9



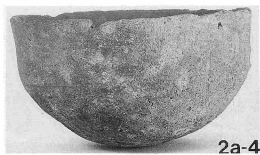
1-10

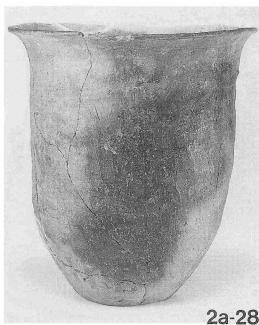
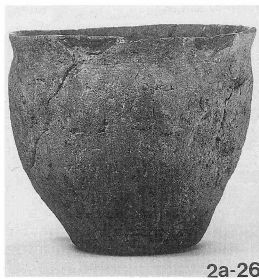
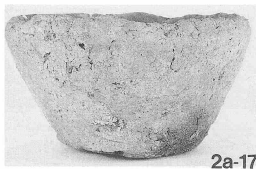


1-12



1-7





第 2 a 号住居址出土土器



3a-1



3a-3



3a-11



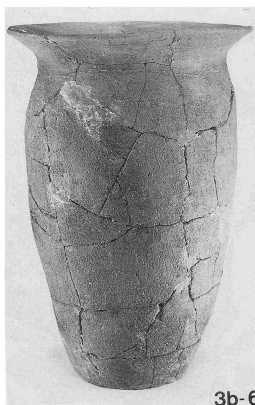
3a-4



3a-5



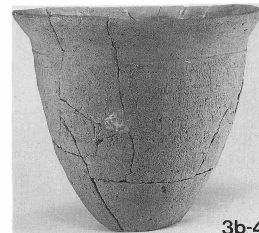
3a-7



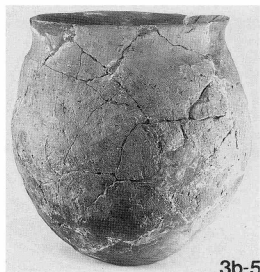
3b-6



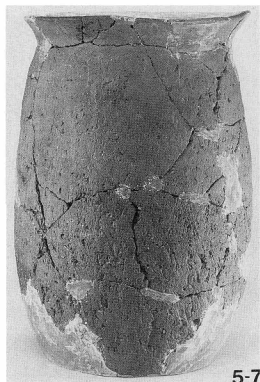
3b-1



3b-4



3b-5



5-7



5-2



4a-7



4a-1



4a-2



5-3



6a-1



6a-2



6a-3



6b-2



6b-4



15-3



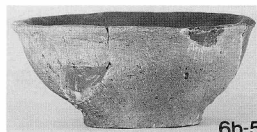
6a-7



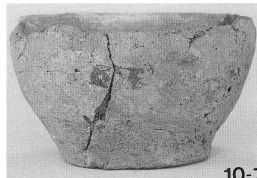
6a-11



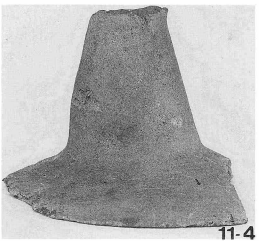
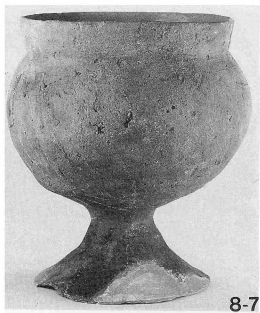
6b-1



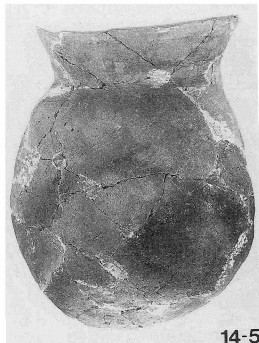
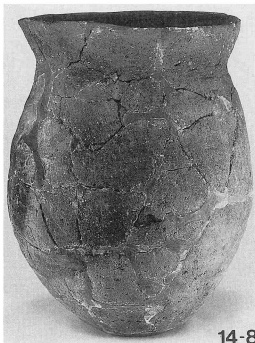
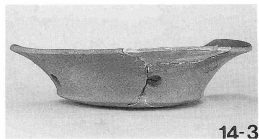
6b-5



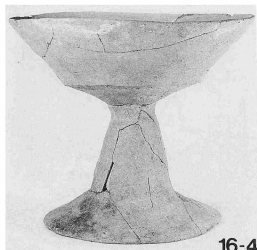
10-7



図版 8



第14号住居址出土土器



16-4



16-6



16-5



16-3



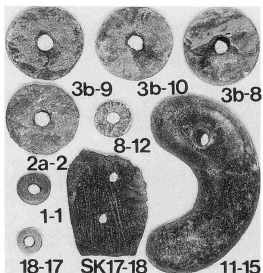
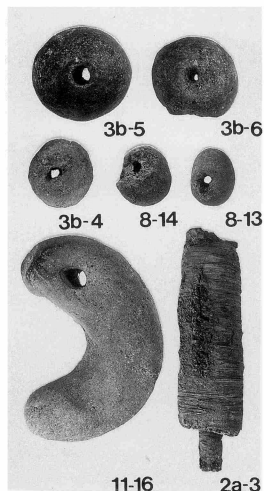
16-1



SK10-3



16-11



第3b号住居址出土土器・各遺構出土その他の遺物

児玉町文化財調査報告書第8集

## 真鏡寺後遺跡Ⅱ

児玉町内遺跡群埋蔵文化財保存事業に伴う調査報告書

昭和63年3月22日印刷

昭和63年3月31日発行

**発行者** 児玉町教育委員会

埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368

**印刷所** 有限会社 日進社

埼玉県児玉郡児玉町大字児玉60